

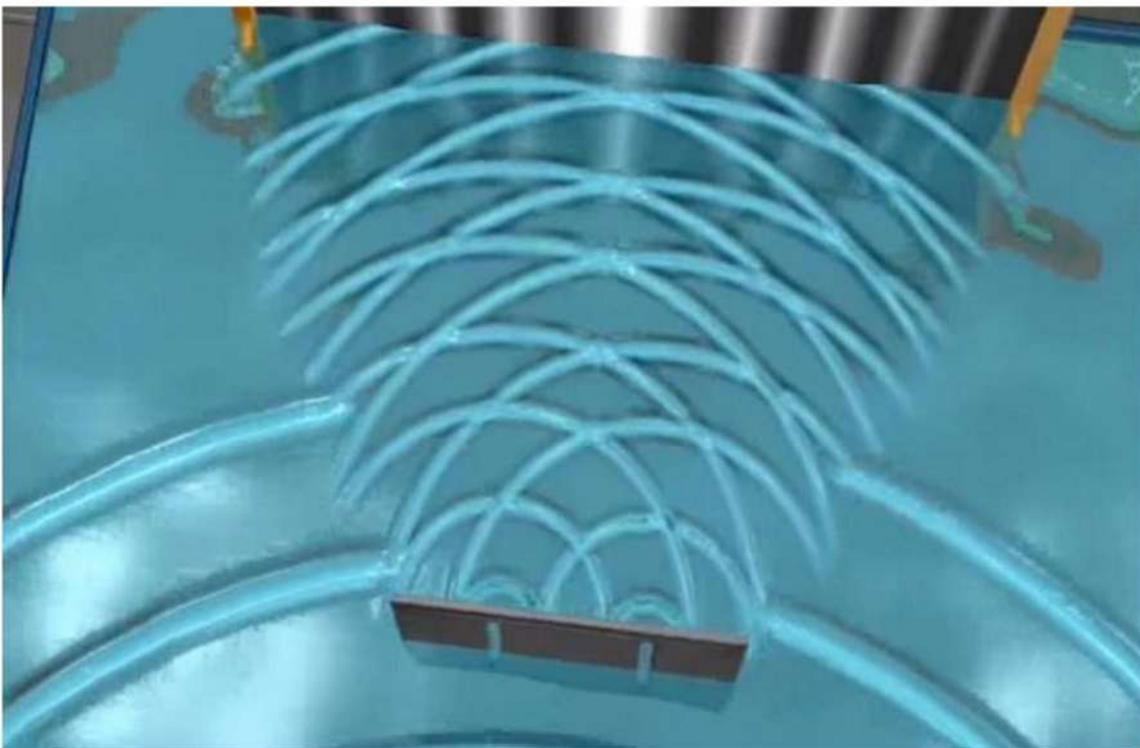
【世界】

～量子力学～

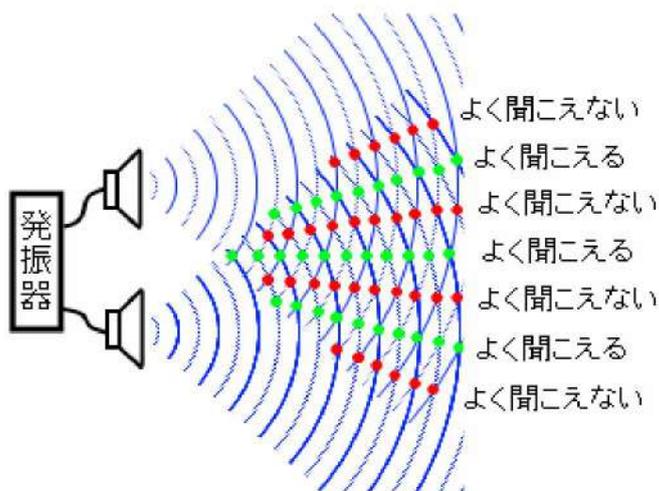
※画像：<https://newphilosophy.net/> <https://phys-and-program.com/entry/doubleslitexperiment>



電球の光が「波」である特徴

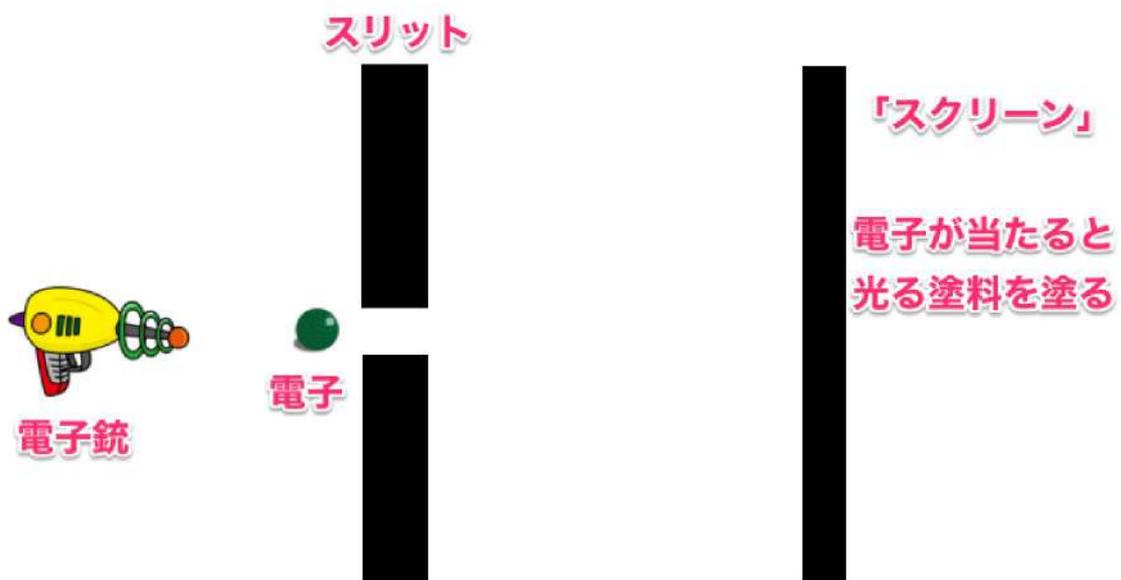


このように干渉することで、縞模様になる

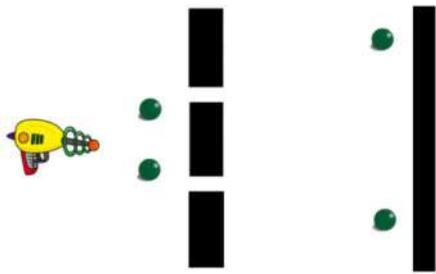


※画像：<http://wakariyasui.sakura.ne.jp/p/wave/kannsyoyu/yanngu.html>

音に例えると、このような感じ（※音も波である）

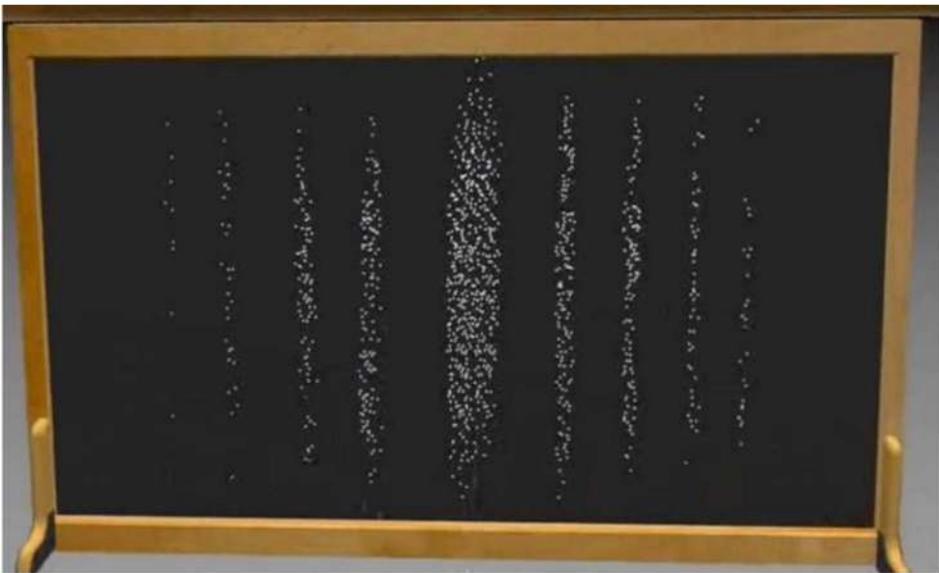


電子1粒発射すると、1粒分の跡がスクリーンに残る（電子は粒子である）



※画像：<https://prestige.smt.docomo.ne.jp/article/9323>

電子をマシンガンのごとく連続で発射する



波の特徴である縞模様になる（電子は波である）

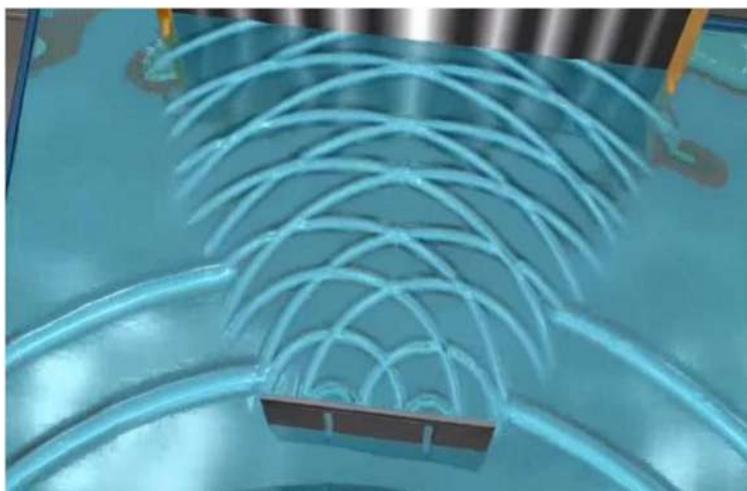
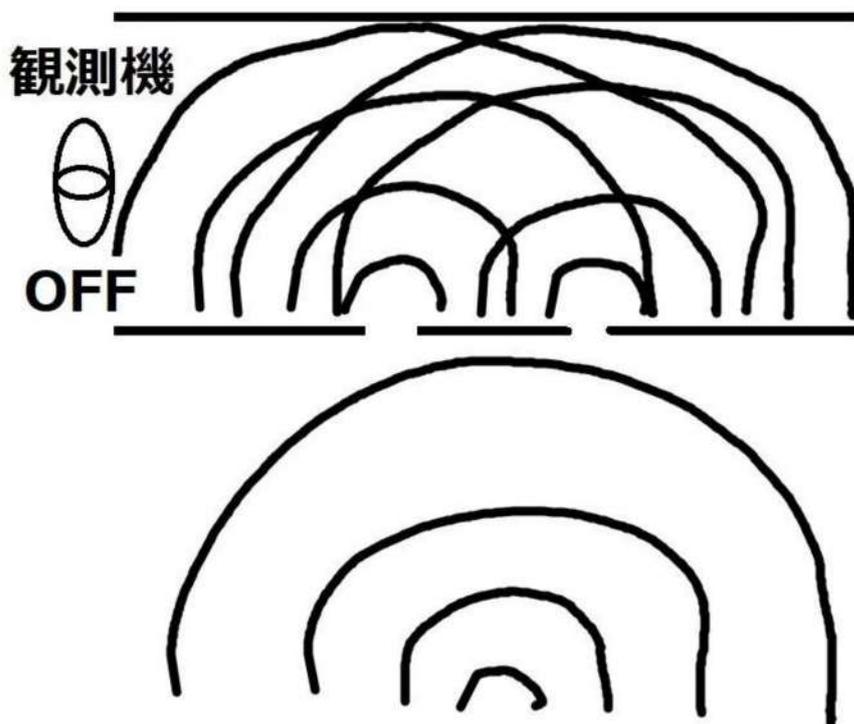


これは、非常に大きな分子でも同様の結果になる
以下、電子やこれら分子を総じて「量子」と呼ぶことにする

つまり、量子は「粒子でもあり、波でもある」
これはいったい、どういうことか？

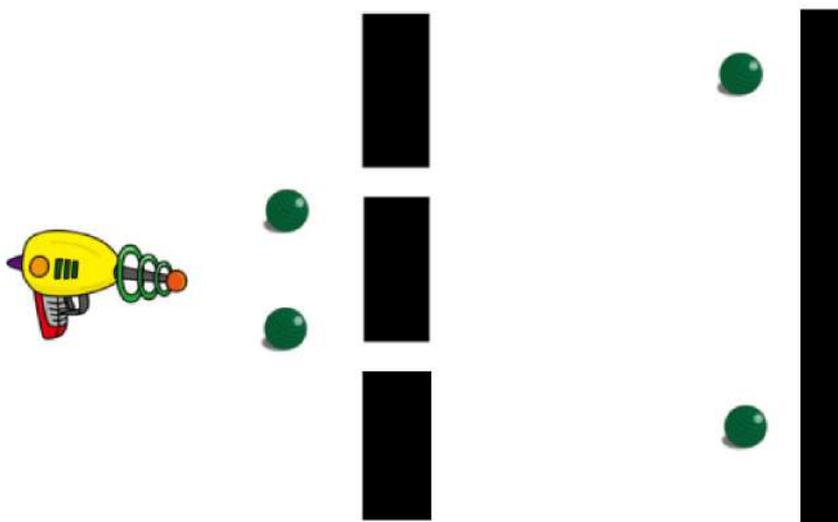
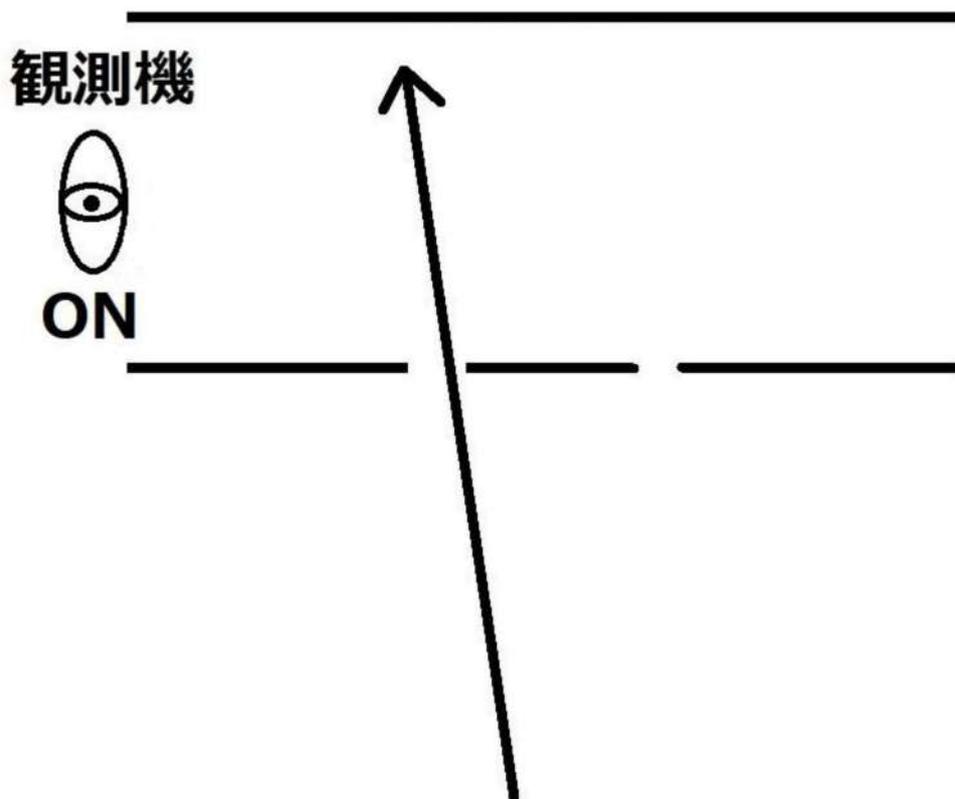
ここからが本題
スクリーンとスリットの間を観測機を設置する

観測機 OFF



波の特徴が現れる

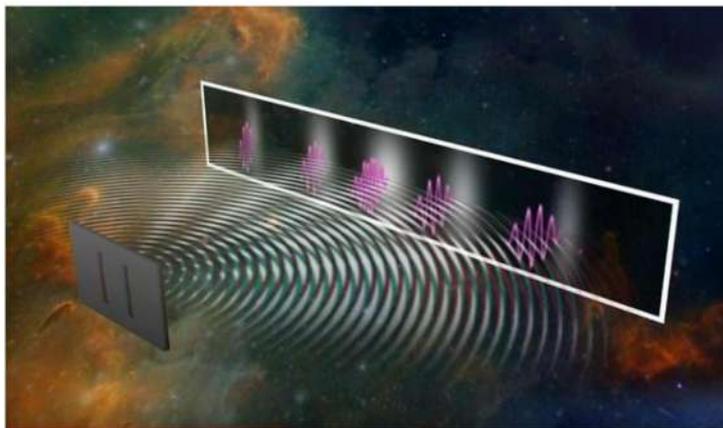
観測機 ON



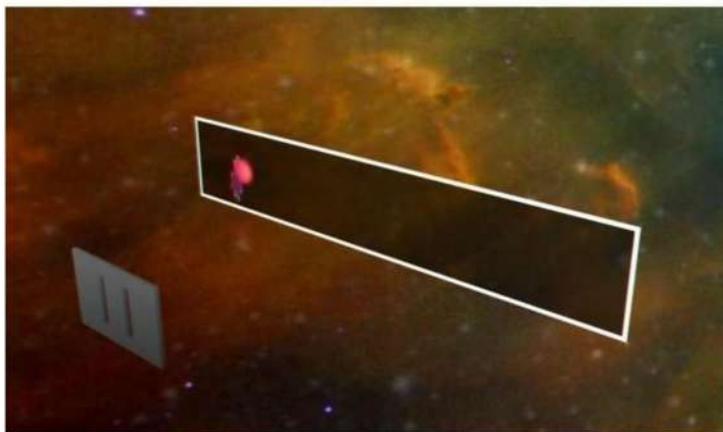
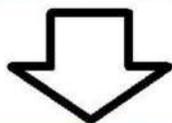
粒子の特徴しか現れない

つまり、観測前の量子は「波動」であるが、観測後 量子は「粒子」になる

つまり、それを図にするとこういうことになる



観測前



観測後

これはいったいどういうことか？

この問題を「観測問題」と呼ぶ

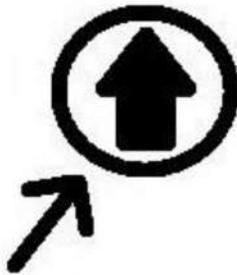
そして、この「観測問題」には、様々な哲学的解釈が存在する。

代表的な解釈の紹介は後にするとして、もう1つ量子の不思議な性質を紹介したい

観測前



観測後



“観測”

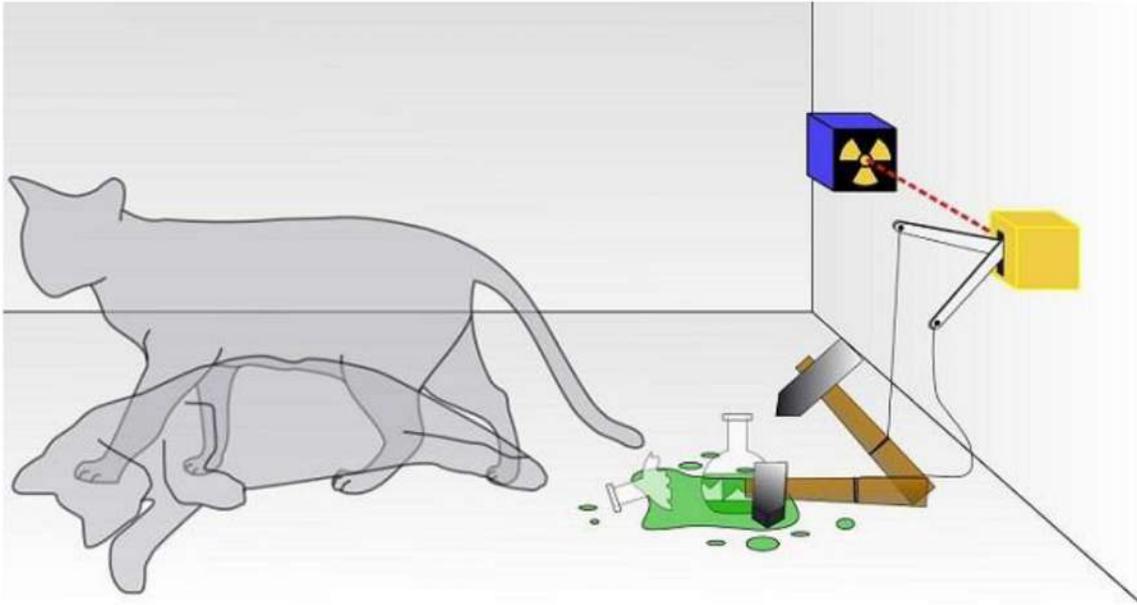
量子にはスピンという回転運動が存在し、上向きのスピン、下向きのスピンといった性質が各量子によって存在する

そして、観測前のスピンの方向は「わからない」 観測することで初めて「スピンの方向を知ることができる」

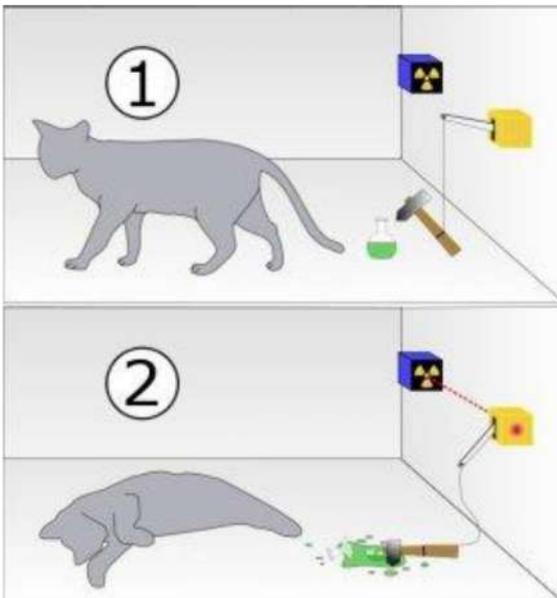
または、観測前の量子は、上向きのスピンと下向きのスピンの「両方の性質が重ね合わさっている」

これをシュレーディンガーの猫という思考実験で表すとこうなる

観測前



観測後



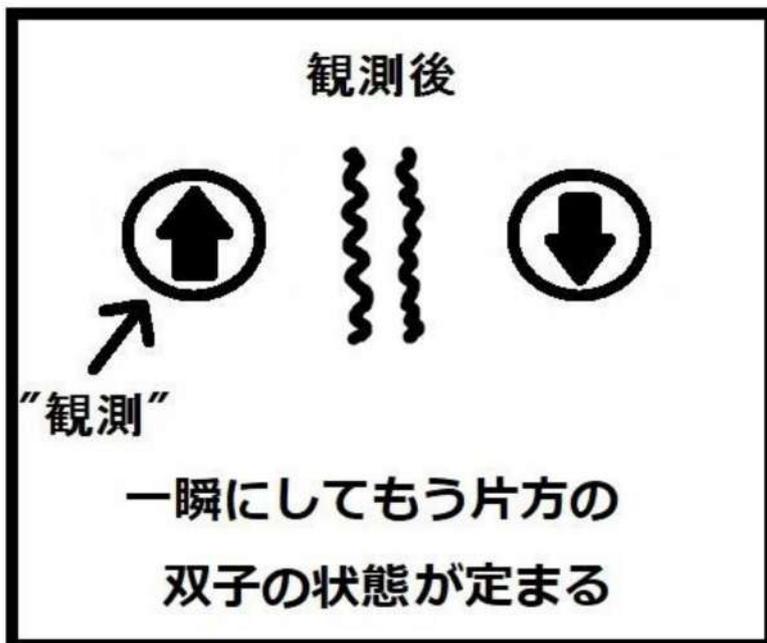
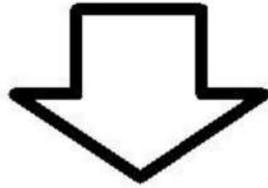
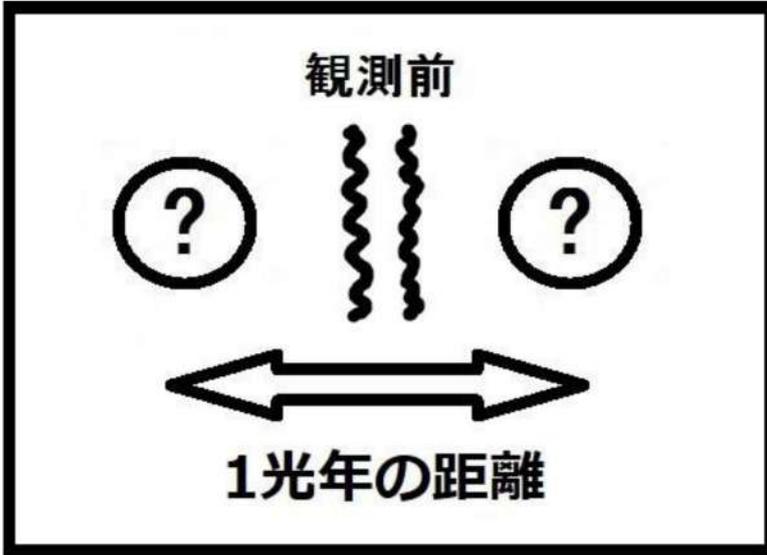
※画像：<https://elrincondesofista.wordpress.com/2012/10/20/el-gato-de-schrodinger-paradoja/>

観測前の箱の中の猫は、「生きた状態」と「死んだ状態」の重ね合わせの状態であり、観測することで初めて、「生きた状態」or「死んだ状態」が確定する

という奇妙なことになる

量子を二つに分裂させると双子の量子が生まれる

そして、その双子の量子は片方が上を向けばもう片方は必ず下を向く性質がある



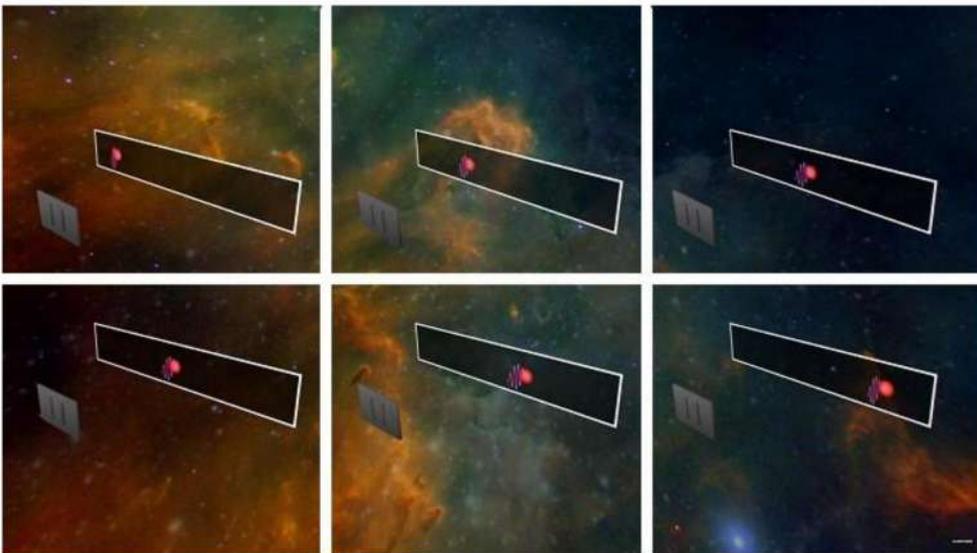
どんなに離れていても、双子の量子はお互いのスピンの方向を一瞬にして知ることができるという、奇妙な遠隔操作が存在する
これら量子の奇妙な性質は、「なぜこうなるのか？」という部分が未解決であり、
ゆえに、様々な哲学的解釈が存在する

1 : コペンハーゲン解釈

- ・波は、確率を表している つまり、この世は確率によるランダムに支配された世界
- ・確率解釈は、波動関数から粒子の存在確率が求められることを示しているだけで、決して波動関数が実在する波であることを否定しているわけではない
- ・ランダムな情報のみなので、ミクロの世界限定において非局所性を認めても良い

問題点→シュレーディンガーの猫が説明できない（波動関数の収縮がいつどのようにして起きるのかを説明することはできない）

2 : エヴェレットの多世界解釈



結果の数だけ「世界が分離する」

問題点：

赤い点を「人間 A さん」とする

そして、一番左上にある赤い点が「今日の前にいる A さん」

Q：今日の前にいる A さんは、なぜ複数ある世界の中の、この世界の A さんなのか？

Q：それ以外の世界にいる A さんはいったい誰なのか？

別の複数の世界に同じ A さんがいる

けど、記憶や経験は一致していない

Q：果たしてそれは本当に、別の世界の A さんは A さん自身と言えるのか？

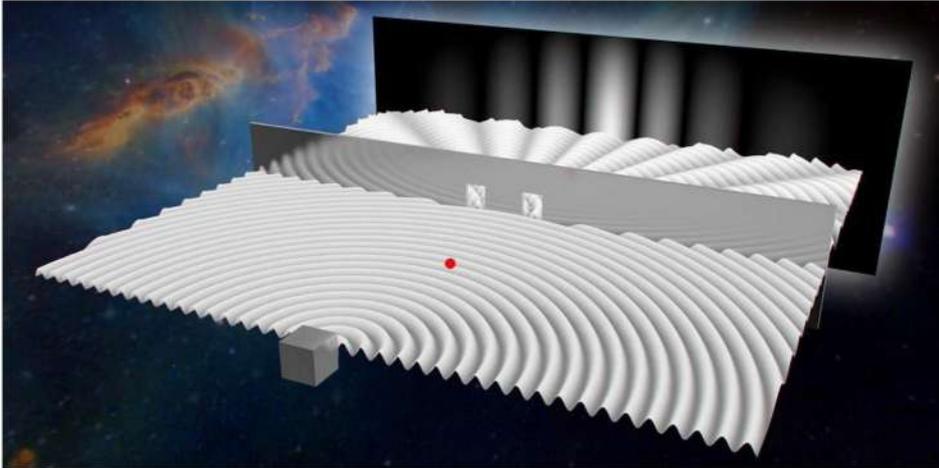
A さんそっくりの別人ではないか？

理論が完璧に成立する条件

・ゾンビワールド

だがゾンビワールドというのは実際には考えられない ⇒ 哲学的に破綻する

3：ボーム解釈



粒子は物質として初めから存在する

波はガイド波として別に存在し、粒子はその波に乗って動く

決定論に属する

問題点

- ・ガイド波のための数式を加えなければならない
- ・相対性理論との相性が非常に悪い
- ・量子エンタングルメントの問題

(宇宙に広がっている波が何らかの理由で一体化しているという、宇宙の波動関数という概念が必要になる)

～ここまでのまとめ～

2：エヴェレットの多世界解釈（唯物論）は哲学的に破綻する

3：ボーム解釈 は解決すべき深刻な問題点が多い

一番妥当なのは、1：コペンハーゲン解釈 の確率解釈といえる

(ただし、文字通り確率によるものだけなのか、意識による作用も含まれているのか?)

⇒意識による作用も示唆：地球意識プロジェクト（モーガン・フリーマンが語る宇宙「第六感の真偽」より）

これに、次の解釈を加えることにより、より強固な理論になる

4 : 内在秩序、外在秩序

ボーム解釈のデヴィッド・ボームが提唱した概念

- ・ 内在秩序：波動関数で表される秩序
- ・ 外在秩序：波動関数の収縮により粒子が表れる秩序

波には粒子が辿ることのできるあらゆる軌道の可能性の情報が含まれている

- ・ 最小作用の原理（宇宙は効率の良いルートを選ぶという物理学の基本原則）を元に経路積分で計算すると、量子力学で見慣れた確率分布が現れる
⇒コペンハーゲン解釈における"何らかの秩序"の正体かも？

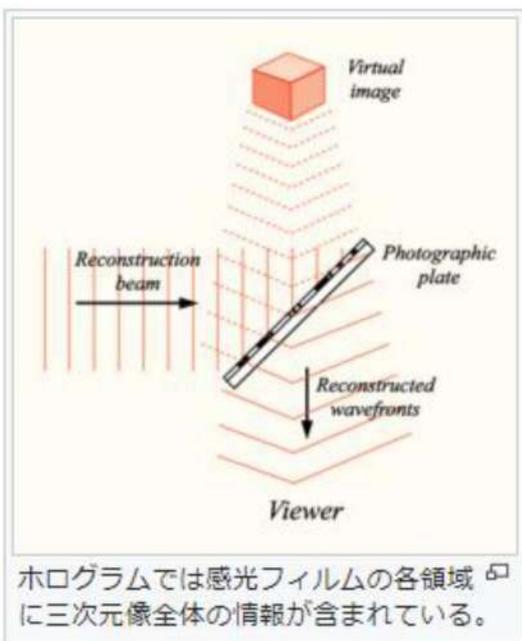
量子トンネル効果

- ・ 通常なら貫通不可能なはずの壁を粒子が通り抜ける現象
⇒通常じゃ考えられないルート（虚数空間）を通る？

したがって、確率解釈のコペンハーゲン解釈を基に、意識による作用、内在秩序と外在秩序の概念も含まれた解釈を私は指示する

※ポストコペンハーゲン理論（『とんでもない世界』より）

～ホログラムと内在秩序～



※画像：<https://ja.wikipedia.org>

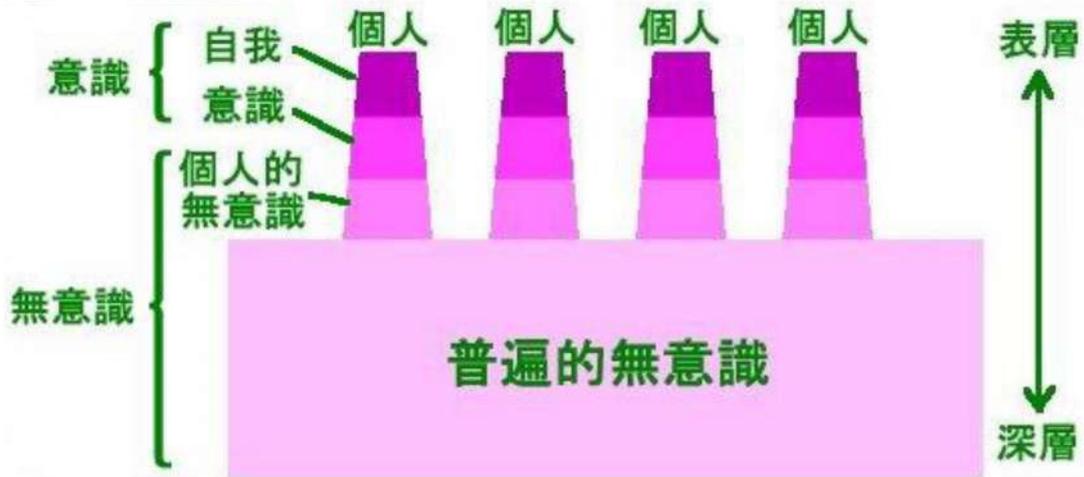
ホログラムの性質 ⇒ 各部分断片に、三次元像の全情報が含まれている

(内在秩序：ホログラムフィルムに記録された情報、外在秩序：投影された三次元像)

内在秩序のポイント

- ユング心理学の集合的無意識の概念 にも適応できる
- 仏教や東洋哲学の思想 にも適応できる
 - 「量子論は仏教の教えと同じ」ダライ・ラマ 14 世が感動解説！ “シュレーディンガーの猫” も一致、科学と宗教が統合へ!?
- http://tocana.jp/2017/05/post_13173_entry.html
- ということは、プラトン哲学のイデア論 にも置き換えられる
- 脳ホログラフィー理論によって、脳は一種のホログラムであり、つまり小宇宙であると示唆
- そもそも脳ホログラフィー理論は、量子脳理論とも言える
- <https://newphilosophy.net/> で哲学的に考察されているシミュレーション仮説も、似た結論に至っている
 - 意識 ⇄ 量子情報 と捉えると、量子脳理論もシミュレーション仮説も両方とも辻褄が合う
 - 量子状態はイデアに近い形で情報として存在している (『とんでもない世界』より)
- 臨死体験者が証言する「あの世の世界」が量子脳理論とそっくりな件
 - <http://ikiruimi.jp/sigo/ryousinou/>
- また、量子重力理論を、超弦理論とループ量子重力理論の複合的理論であると捉えると、超弦理論が示唆する「ホログラフィック原理」やループ量子重力理論が示唆する「スピンネットワーク」が、シミュレーション仮説や内在秩序の仮説と整合性が見い出せて、つまり、この世界は内在秩序が創り上げたシミュレーション世界であると解釈できる

～ユング心理学～

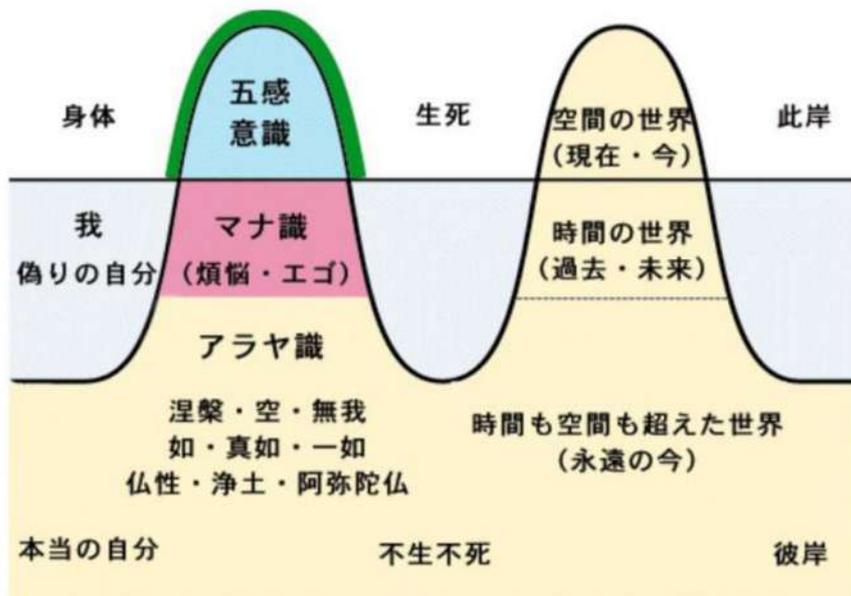


※画像：<http://lanopa.sakura.ne.jp>

スイスの精神科医・心理学者 カール・ユングによって提唱された、分析心理学の中心概念

集会的無意識（普遍的無意識）⇔ 内在秩序 と解釈できる

～仏教～

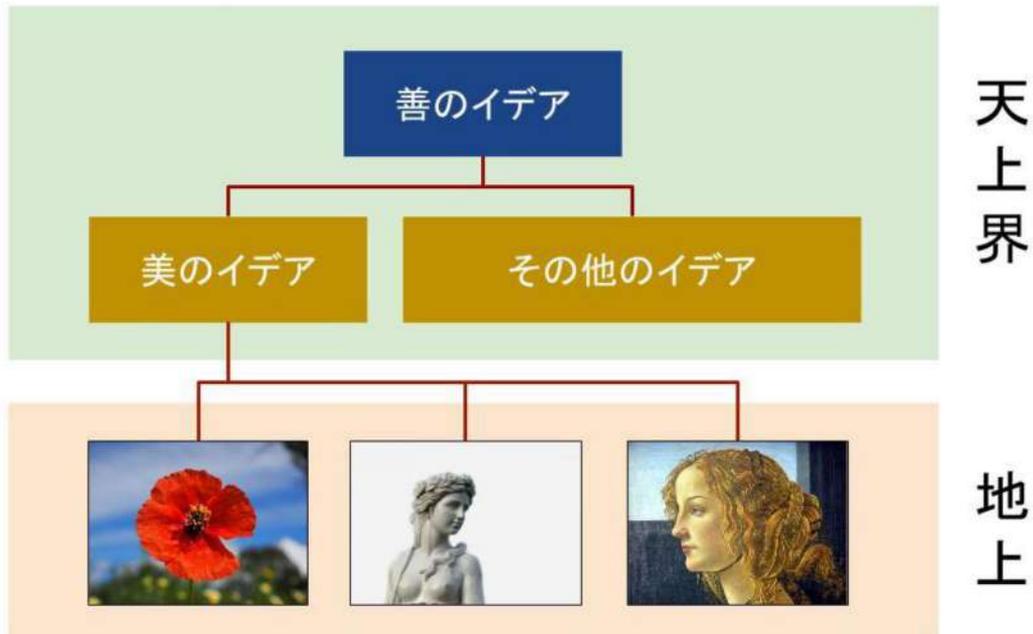


出典http://homepage3.nifty.com/Tannisho/H24_Gosyoki_Tabata_Text2.pdf

仏教における、唯識論の概念

阿頼耶識の領域 ⇔ 内在秩序 と解釈できる

アイデアの全体像



※画像：<http://www.kyamaneko.com>

古代の西洋哲学における、プラトンの思想

この世に実在するのはアイデアであって、我々が肉体的に感覚している対象や世界とはあくまでアイデアの《似像》にすぎないとする

※古代ギリシャの密儀宗教「オルペウス教」の基本教義「魂と肉体の二元論、転生、輪廻からの最終解脱」（輪廻転生からの解脱という概念は、インドのバラモン教と酷似する）から影響を受けた、ピタゴラス学派（数学・音楽・哲学の研究を重んじた）と交流を持ったことで、数学・幾何学と、輪廻転生する不滅の靈魂の概念を重視するようになり、アイデア論は醸成されていった

（数学の幾何学を、感覚を超えた真実在としての「アイデア」概念を支える重要な根拠とした）

天上界 ⇔ 内在秩序 と解釈できる

～宇宙論の基礎知識～

一般相対性理論：巨視的なレベルの物理現象を説明

量子力学： 微視的なレベルの物理現象を説明

自然界に存在する 4 つの力（相対的な強さ）

- ・強い力： 10^{40}
- ・弱い力： 10^{38}
- ・電磁気力： 10^{15}
- ・重力： 10^0 （微視的な世界で無視できるレベル）

微視的な世界では、他の 3 つの力と比べ圧倒的に小さい重力の作用を無視できる

巨視的な世界では、微視的な世界で作用する量子論効果は無視できる

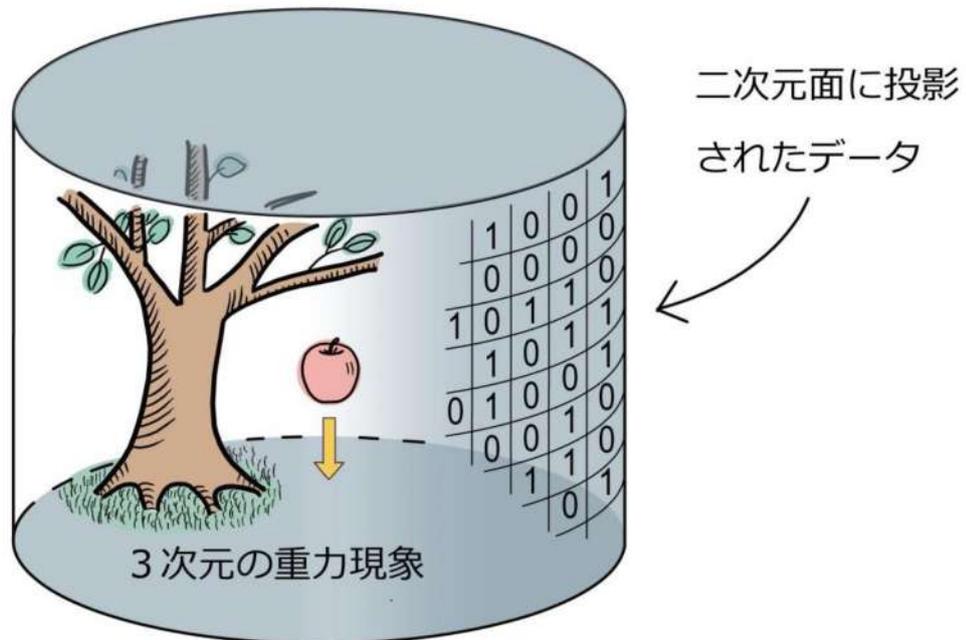
よって、一般相対性理論を適用する場面と、量子力学を適用する場面は、通常は重ならないため、両者を考慮する必要はない

しかし、ブラックホールやビッグバン（宇宙誕生の瞬間）などの大質量かつ微視的なスケールの現象を説明するためには、この両者を併用する必要があるが、両者を併用しようとすると、深刻な矛盾や対立が生じてしまい、うまくいかない（重力が原因）

そこで、その重力を量子化する理論の完成が必要となり、量子重力理論という名で様々な試みが行われている

重力の量子化により、一般相対性理論と量子力学の双方を統一する理論の完成が期待でき、その理論の完成が意味するのは、物理的な宇宙の世界ほぼすべてを解明できることを意味する

～ホログラフィック原理～



※画像：<https://www.ipmu.jp/ja/node/2175>

ホログラフィック原理：量子重力理論の最有力候補である超弦理論から導き出される原理

・宇宙は、巨大なホログラムである

詳しい説明はこちら⇒

<https://gigazine.net/news/20170828-black-holes-information-paradox/>

研究：量子もつれが時空を形成する仕組みを解明～重力を含む究極の統一理論への新しい視点～

<https://www.ipmu.jp/ja/node/2175>

～量子重力理論による宇宙像～

量子もつれが時空を形成する仕組みを解明～重力を含む究極の統一理論への新しい視点～

(東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 (Kavli IPMU) の大栗博司主任研究員とカリフォルニア工科大学数学者のマチルダ・マルコリ教授と大学院生らの物理学者と数学者からなる研究グループ)

—量子コンピューターを扱う量子情報の研究者と、一般相対性理論や超弦理論を研究する物理学者の共同研究

<https://www.ipmu.jp/ja/node/2175>

- ・時空は「量子もつれ」から生まれる一仕組みを具体的な計算を用いて解明

http://www.nikkei-science.com/201704_040.html

- ・時空は量子情報の基本単位（量子ビット）からできていて、それらの構成要素は「量子もつれ」という奇妙な現象を介して結びついている

http://www.nikkei-science.com/201701_025.html

http://www.nikkei-science.com/201701_026.html

- ・一般相対性理論が預言する「ワームホール」の存在と、量子力学の「量子もつれ」は等価である

http://www.nikkei-science.com/201701_034.html

- ・超弦理論の研究でホログラフィー原理のモデル、「AdS/CFT 対応」が見つかり、2次元空間からの3次元空間の生成に、「量子もつれ（エンタングルメント）」という量子力学的な現象がカギを握ることもわかってきた

ループ量子重力理論

<http://butsuri.fun/5526/> 【モーガン】 「宇宙のフォース」まとめ

- ・量子もつれはワームホールと関係があるかも
- ・ループ量子重力理論では、量子もつれでブラックホールの先に別の宇宙ができるとする
- ・量子もつれは空間のみならず時間も超越する説がある

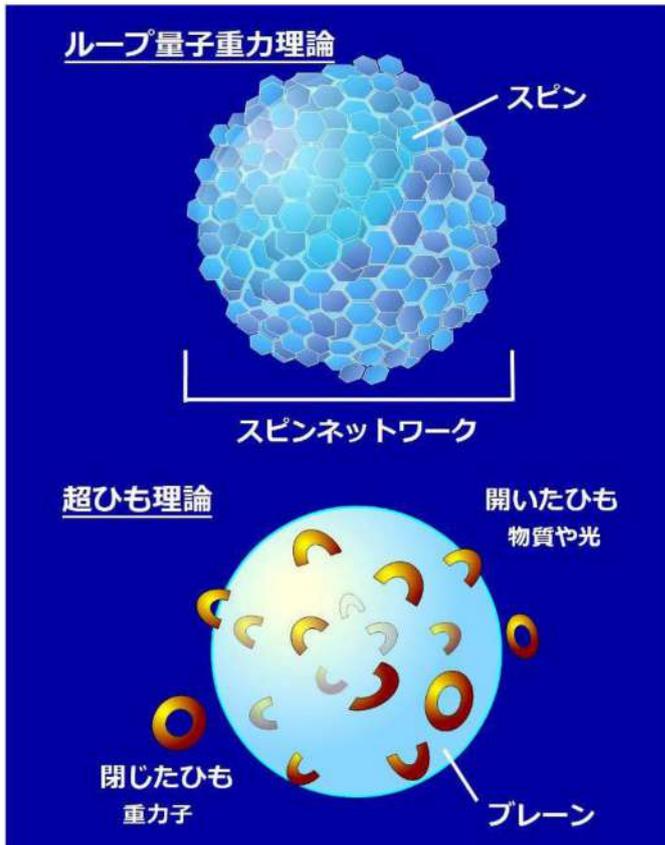
<http://blog.livedoor.jp/dogon23/archives/27845902.html> ブラックホールが「別の宇宙への出入り口」である可能性が浮上・ループ量子重力理論をブラックホールのモデルに適用した結果

- ・「ループ量子重力理論」・宇宙はビッグバンならぬ「ビッグバウンス」により生じた？
- ・ブラックホールが「別宇宙への出入り口(ポータル)」である可能性

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%97%E9%87%8F%E5%AD%90%E9%87%8D%E5%8A%9B%E7%90%86%E8%AB%96>

- ・ループ量子重力理論は、時空（時間と空間）にそれ以上の分割不可能な最小単位が存在することを記述する理論である
- ・超弦理論は、時空は背景場として最初からそこに存在するものとして定義（が、大栗教授らの研究により、時空の仕組みが解明へ）

<https://essay-hyoron.com/essay53.html>



※画像：<https://essay-hyoron.com/essay53.html>

・ループ量子重力理論とひも理論の宇宙像

ゆえに、これらの研究結果は、超弦理論とループ量子重力理論の融合にもなり得ると考えられる

また、ループ量子重力理論が成り立つということは、「ブライアン・ウィットウォースの挙げるこの宇宙がコンピュータシミュレーションである 11 の理由 <https://newphilosophy.net/simulation/11.html>」の中の、3. デジタル処理 も対応させることができ、この世は量子情報によるシミュレーション世界であるといえる

※補足：

弦理論のホログラフィック原理と、ロジャー・ペンローズのツイスター理論は、関連付けられる ⇒ ツイスターホログラフィー

(モーガン・フリーマンが語る宇宙「重力の正体」より)

http://engineer.fabcross.jp/archeive/180330_oist.html

ツイスター理論と超弦理論の融合の取り組み（ツイスター+ひも=時空の謎解き）

<http://www.nikkei-science.com/?p=16197>

上記の補足からも、超弦理論とループ量子重力理論は結び付けられる理論であると考えられる

宇宙像

高次元の時空（バルク）に埋め込まれた膜（ブレン）が我々の住む4次元時空の宇宙である

その膜宇宙は、スピネットワークにより形成されている（ひも \rightleftharpoons スピン）

そして、宇宙と宇宙はブラックホールにより生じたワームホールにより繋がっている

宇宙は巨大なホログラムであり、内在秩序からのシミュレーション世界である と解釈

【生命、脳】

～プリブラムによる脳のホログラフィー理論～

脳のホログラフィー理論

脳のホログラフィー理論とは、ジョージタウン大学認知科学教授、神経生理学者・スタンフォード大学医学部教授の**カール・プリブラム**(Karl H. Pribram、1919年2月25日ウィーン生まれ)によって提唱された理論。

認識機能のホロノミックな脳モデル開発者および**記憶痕跡(エングラム:engram)**の継続的神経学的研究者として知られているカール・プリブラムは、**脳梁**についてのパイオニア的な業績を残した。

※出典：<https://ja.wikipedia.org>

脳の記憶の保存に関する研究から、脳はホログラム的の性質があるとプリブラムは結論付けた

～量子脳理論 (ロジャー・ペンローズが有名)～

量子脳理論

量子脳理論 (りょうしのうりろん) は、**脳**のマクロスケールでの振舞い、または**意識**の問題に、**系**の持つ**量子力学的な性質**が深く関わっていると**する考え方**の総称。心または**意識**に関する**量子力学的アプローチ** (Quantum approach to mind/consciousness)、**クオラム・マインド**(Quantum mind)、**量子意識** (Quantum consciousness) などとも言われる。具体的な理論にはいくつかの流派が存在する。

※出典：<https://ja.wikipedia.org>

意識の発生は、量子力学的性質が深くかかわっているのではないかという仮説

・特に、理論物理学者**ロジャー・ペンローズ**と、麻酔科医・医学博士**スチュワート・ハメロフ**による、量子脳理論が有名

<http://ikiruimi.jp/sigo/anoyo-ryousiron/>

量子神経科学、量子心理物理学、量子存在論へ発展 (『とんでもない世界』より)

～生物と量子力学の関係性～

生物学者ジョンジョー・マクファデン、理論物理学者ジム・アル=カーリーらによる、量子生物学により研究されている

例：「鳥は量子もつれで磁場を見る」：数学モデルで検証

<https://wired.jp/2011/02/03/%E3%80%8C%E9%B3%A5%E3%81%AF%E9%87%8F%E5%AD%90%E3%82%82%E3%81%A4%E3%82%8C%E3%81%A7%E7%A3%81%E5%A0%B4%E3%82%92%E8%A6%8B%E3%82%8B%E3%80%8D%EF%BC%9A%E6%95%B0%E5%AD%A6%E3%83%A2%E3%83%87%E3%83%AB%E3%81%A7/>

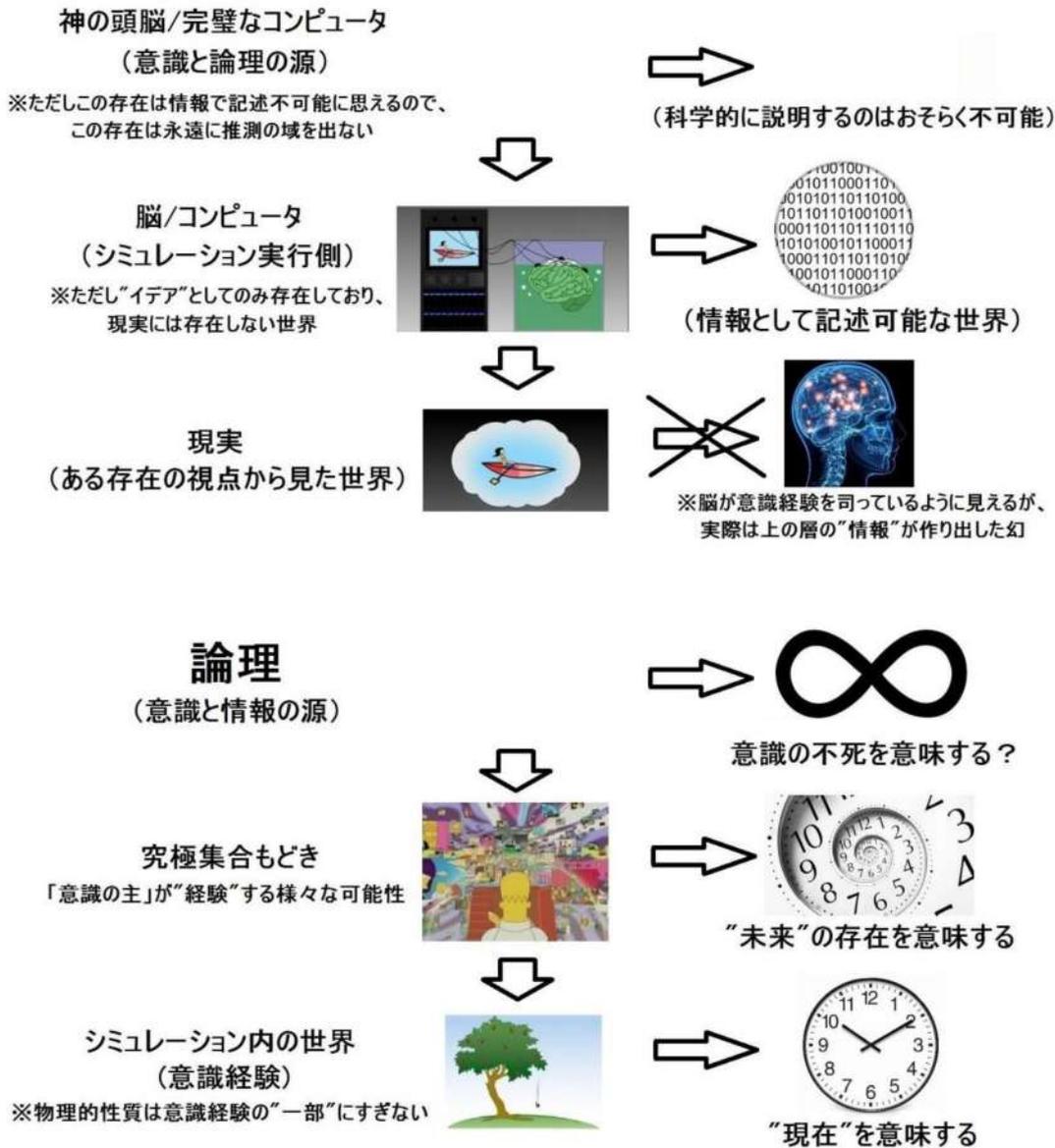
脳は小宇宙であり、内在秩序からの受信機である と解釈

【哲学】

～永遠の水槽の脳シミュレーション仮説～

<https://newphilosophy.net/simulation.html>

※以下、このサイトの内容を引用



※画像：<https://newphilosophy.net>

認識論の種類

- ・マテリアリズム (唯物論)
- ・イデアリズム (観念論)
- ・ソリプシズム (独我論)

唯物論の反証

- ・多世界解釈は哲学的に矛盾する

※量子力学のエヴェレットの多世界解釈を参照

- ・メアリーの部屋

<https://newphilosophy.net/philo/mary.html>

白黒の部屋で生まれ育ったメアリーという女性がいる。メアリーはこの部屋から一歩も外に出た事がない。つまりメアリーは生まれてこのかた 色というものを一度も見たことがない。

メアリーは白黒の本を読んで様々なことを覚え、白黒のテレビを通して世界中の出来事を学んでいる。

メアリーは視覚の神経生理学について世界一線レベルの専門知識を持っている。光の特性、眼球の構造、網膜の仕組み、視神経や視視野のつながり、どういう時に人が「赤い」という言葉を使うのか、「青い」という言葉を使うのか、など、メアリーは視覚に関する物理的事実をすべて知っている。

さて、彼女がこの白黒の部屋から解放されたらいったいどうなるだろうか。生まれて初めて色を見たメアリーは何か新しいことを学ぶだろうか？ 仮にメアリーが何か新しい事を知るとしたら、定義よりそれは物理的な事実ではない。その場合 唯物論 (物理主義) は偽である。

- ・現象判断のパラドックス

<https://newphilosophy.net/simulation/qualia.html>

もし脳が数学的に全て説明可能な存在だとするならば、数学的に説明可能な存在がなぜ数学の枠を超えた「意識」や「クオリア」の概念を知っていて、それについて語る事ができるのか？

(純粋な) 観念論の反証

- ・宇宙中の全ての生物が絶滅したら世界はどうなるのか？

⇒物質世界は消滅するのか？

<https://newphilosophy.net/philo/two.html>

- ・シュレーディンガーの猫を考慮すると哲学的に矛盾する

⇒先に観測した観測者 A にとっては確率論でも、後から観測した観測者 B にとっては決定論になる

<https://newphilosophy.net/quantum/copenhagen.html>

(純粋な) 独我論の反証

- ・意識の外には何も存在していない (矛盾する)

⇒では、なぜ物理法則が世界には存在するのか？ 何がそれをコントロールしているの

か？ 仮に意識そのものがコントロールしているのであれば、なぜ意識の主は神のように世界を自在にコントロールできないのか？

<https://newphilosophy.net/philo/two.html>

シミュレーション宇宙には大きく分けて二種類の意味がある

- ・シミュレーション内から見た現実
- ・シミュレーションの外から見たシミュレーション内の世界

前提：シミュレーション内から見た現実には存在する

⇒もし存在しなければ、シミュレーションを実行している宇宙をシミュレーションしている宇宙の…という無限後退によって全ての宇宙には意識が存在しない（神の視点しか存在しない）となる

シミュレーション内から見た現実の考えられる候補

- 1：シミュレーションの外にいる存在がオンラインゲームの要領でシミュレーション内のキャラ（人物）に入り込んでこの世界を観察している
- 2：純粹にシミュレーション内の存在として生まれ、人生を経験している
- 3：シミュレーションの外に存在がシミュレーション内のある人物の人生を経験する為にシミュレーション実行側にいた時の記憶を完全に忘れる形でその人物に入り込んで現在シミュレーション内で生きている

1の候補は、「シミュレーションの外から見たシミュレーション内の世界」と意味が変わらないので無視

2の候補：意識があつてここにこうやっているのだからシミュレーション仮説が正しい場合普通にあり得ると思われるが、3の候補の可能性を考慮すると、そう言い切れなくなる

3の候補

- ・シミュレーション内で生まれたある人物の経験をシミュレーション外の存在が知るにはその人そのものになる必要がある
- ・かといって、現在の記憶を持ったままその人になると1番目の可能性と何も変わらない
- ・つまりある人物の経験を完全な形で知るには、その人物でいる間はシミュレーション実行側にいた時の記憶を思い出せないようにする必要がある
- ・そして、ある人物の経験を知ることが目的でシミュレーション宇宙が創られたのであれば、わざわざ全宇宙をシミュレーションする必要はない

・そこに人生設計用のシミュレーションプログラムを加えればこの説は完成する
要するにこれは「水槽の脳」に近いタイプのシミュレーション仮説である

ここで候補が絞られた最有力仮説

シミュレーションの外の存在がシミュレーション内のある人物の人生を経験する為にシミュレーション実行側にいた時の記憶を完全に忘れる形でその人物に入り込んで現在シミュレーション内で生きているタイプの、「水槽の脳」に近いタイプのシミュレーション仮説

利点

- ・無限後退の問題を解決できる可能性がある
- ・意識の問題の解決も大きく進展する

この現実が水槽の脳で成り立っていると仮定したら見えてくるもの

- ・神の視点から見た宇宙ではなくある特定の人物から見た視点でのみ宇宙が存在している

つまり、ソリプシズムと基本的には変わらない

(ソリプシズム=世界に自分以外の意識は存在しない)

だが、この現実が本当に水槽の脳タイプのシミュレーションで成り立っているとしても自分から見た他の人々は完全な哲学的ゾンビと言い切ることは出来ない

- ・なぜならその自分以外の存在は今の自分を体験している「意識の主」が以前体験した、もしくは今後体験する存在の可能性があるからである
- ・さらにその「意識の主」の脳は現在の人間の脳の機能より格段に優れており別々のシミュレーション人生を同時に体験している可能性だってある
- ・「別の意識の主」が"この世界"に該当する自分以外の人生を経験しており、その「意識の主達の人生」は更に上の層の水槽の脳のシミュレーションによってある一つの意識の主が体験している、というパターンも考えられる

ゆえに、この説はソリプシズム（独我論）なのだが、イデアリズム（観念論）的でもある

他にもこの説は従来だと解決不可能に思えた中国語の部屋、スワンプマン、逆転クオリア、メアリーの部屋などの哲学的難問（意識のハードプロブレム）が完全に解決されるとは言い切れないが、少なくとも考慮しない場合と比べると格段に取り扱いやすくなる

～無限後退の解決方法～

・人知の及ばない天然の超スーパーコンピュータ（神の頭脳）内で発生している

宇宙が情報で成り立っていると仮定するのであればそう考える以外他に選択肢がないように思える

その意味は神の頭脳の中で意識は発生している（情報処理能力が意識を生かせる条件）ではない

意識の正体が神の頭脳である

だからこの理論はイデアリズム的であれど基盤はソリプシズムなわけである

（そして、意識は数学のパターンではなく数学を超えた存在であることを示唆）

神の頭脳：コンピュータはコンピュータでも人工的に再現するのが絶対に不可能なコンピュータ

そしてその不完全バージョンが現実にある脳やコンピュータといえるかもしれない

つまり"現実の真実"は「水槽の脳」（不完全なコンピュータ）だが、"それを制御する論理"が「宇宙の真実」（完璧なコンピュータ）として確かにそこにあり続けるので単純な無限後退には当てはまらない

ただ神という言葉を使っているが、神として意識を持っているとは思わない

というのも神が存在してしまうと全て（無限に存在する生物の可能な限りのあらゆる経験）を知っている以上、そこから変化が何も起きない

変化がないのであれば存在しないと変わらない

よって"意識を持った"全知全能の神（生物としての神）は存在しない

そもそも神の視点と個人の視点の二つが同時に存在するとソリプシズムの原理が崩れる

ちなみになぜそのような究極の情報処理システム（意識）が誕生したのかという疑問は、これはもう永遠の謎とするしかない

誕生したのか、それとも元々そこにあったのか、それすら分からない

なぜ何もないのではなく、何かがあるのかという問いと同じなのでどうしようもない。それは神すら分からない

～補足～

どのタイプの現実も上の層のコンピュータで全ては制御されているので脳が（その世界に）存在せずとも知的生命体として生きて行ける可能性がある

つまりこれが意味するのは「脳」と「コンピュータ」は基本的に同一の存在であるということ

人の脳も動物の脳もそして AI（強い AI）も性能やデザインに違いがあるだけで基本的に全て同じといえる

さらにその二つはどちらも「情報」で構成されているので「脳、コンピュータ、情報」は全て同一であると考えられる

デヴィッド・チャーマーズ (Wikipedia) が考える情報の二相理論

⇒この世界の本質的な所には、ビット列のようなもので構成される抽象的な情報空間がまずあり、その情報空間が物理的性質と現象的性質という二つの性質を持つ

永遠の水槽の脳シミュレーション仮説が正しい場合それは正しくないことになる

論理→情報→現象的性質という流れになる

※物質的性質は現象的性質（意識）が感じ取っている幻にすぎないのでどの層にも存在していない

物や空間といったものは純粋な錯覚ということになる。（意識の外に単独で存在していない）

この現実世界から見ると物質である脳が意識を生んでいるように見えるが、しかし物理的な意味での脳の存在は意識の錯覚にすぎず、更に脳と意識の関係すら上の層の情報（論理）に依存しているので、つまり、この理論が正しい場合この現実の世界では脳はたまたま（知的生命体として生きて行く上で）必要不可欠な"設定"となっているだけである

ちなみに意識の主が神とならない理由は現象的性質が情報の制御下にあるからである

だから意識の主ですら念じて物を動かしたり、思った通りに現実をコントロールできないわけである

※現象的性質は現実でのみ存在するので（シミュレーション実行側は、制御としての役割⇒情報が意識経験（現象的性質）を形作っている）

（意識の主の視点からすると）死後、目が覚めたその世界が次の現実（シミュレーション内の世界）になる

つまり情報が意識経験（現象的性質）を形作っているので"意識の主"が神ではないわけだが、

しかし意識と神の頭脳の意味が同じなのであればこれはちょっと妙である
今のを砕いて説明すると意識の主の"深層心理"が現実ルールを与える事によって「現在の意識の主」に現実を自在にコントロールできないようにさせているという感じになる
自分で自分にルールを課しているともいえる
これは要するになぜ神はこのような世界を創ったのか、もしくはなぜ自分は自分なのかという意識の超難問とほとんど同義である

～量子力学との関係～

もしシミュレーション仮説が事実だと仮定すれば物質であるはずのミクロの物体がなぜ観測されていない時は波動関数のような抽象的な概念として存在できるのか説明できる
⇒情報で構成されているという理由

宇宙（現実）というのは情報（数学）として表現可能なだけでなく本当に情報で構成されているのであればそのパターン数を限定する必要はない

もし無限にあるとすれば並行宇宙どころか多元宇宙どころか、マックス・テグマークが提唱した数学的宇宙仮説、つまり究極集合がそれを意味していると考えられる
(テグマークの主張だと数学は実在するというマテリアリズム的なもの)

だがこの理論はソリプシズムであるので、この場合の究極集合の意味は、意識の主が今後体験する可能性のある現実ということになる

可能性の現実として無限の経験が意識の主の潜在意識の中に広がっている感じである
しかし全てを体験するのは不可能だと思う上に理由がないとも思うので究極集合の概念は永遠に満たされないだろう

つまりそれは究極集合ではなく**究極集合もどき**という事になる（そしてその"形"は永遠に知ることが出来ない）

情報の数に制限がないのであれば、量子力学の解釈に決まった答えはないと考えられる点である

どれも論理的に成り立つのであれば論理的なアイデアとしてその究極集合もどきの中に入っている可能性があるわけである

ボーム解釈が正しい"設定"の世界もありえると同時に、多世界解釈が正しい"設定"の世界（並行宇宙の存在が確認された世界）もありえる

～フェルミのパラドックス～

フェルミのふるいを考慮した結果

- ・単なるゲーム目的でシミュレーションが実行されているとは考えにくい
- ・悪人シミュレーションの可能性も考えにくい
- ・良い人生を送る為だけに実行されているの可能性も低い
- ・この世界の未来に該当する世界でシミュレーションが実行されているとは言い切れない

一体どのような"社会"が水槽の脳シミュレーションを実行しているのか？

フェルミのふるいに引っかからない社会とはどのようなものなのか

シミュレーション経験後に本体の人格の変化が起きるのを考慮すると"個人"の概念が現在地球に存在する社会とは違うはずである

経験前と経験後じゃ若干別人になるのだから現在のよう個性の感覚とは考えにくい
精神的变化を恐れず、シミュレーション実行による"死"をも恐れない

たとえば、集合精神が実際に実現している世界とかならうか？

ただ集合精神といってもハイブマインド（完全に個性が存在しない）タイプとは言い切れない

必要に応じて集合精神に入ったり出たりするタイプ（弱いハイブマインド）も考えられる
実際こっちの方がイデアリズム的なソリプシズムの概念と一致する

ただし、今の話はこの現実の次が水槽の脳のシミュレーションによって行われていたと明らかになる場合にのみ適応される

※明らかにならない場合

集合精神を実現させた存在が経験していたとはならず、
集合精神を実現させた存在によって完璧な形のシミュレーション宇宙から現実世界（もしくは別のタイプのシミュレーション宇宙）へ"死後"に該当するポイントから復元も含み情報の移転が行われたということになる

～上の層のコンピュータの故障による現実の崩壊が起きない理由～

究極集合もどきとして、意識の主の深層心理にパラレルワールドが存在

※本当に存在しているわけじゃないのでそのような多次元（多世界）の概念が意識に何らかの形で常に働いていると考えても問題ない

つまりたとえこの現実が水槽の脳による記憶の転送（運命は決まっている）という形で作られているとしても、意識の主にとっては決定論にならない
なぜなら全ての宇宙（現実）が決定論（記憶の転送）で構成されているとしても、どの決定論の現実に辿り着くかが決まっていなからである

つまりこの理論が正しい場合どのような世界でこの現実が作られているのか、そして本体（次の人生）がどのような存在なのかというのはまだ確定していないという事になる
いや確定しているのだが、どの確定した現実かが意識の主の中では決まっていない

※個人的メモ：つまり、ギャルゲーのADVみたいなものなのか？

どうやってその「選択」は行われているのか？

純粋なランダムによるものなのか、それとも意識の主の深層心理（神の意思？カルマ？）が決めているのか、それとも両方混じった感じなのか、きっとこれは永遠に謎だろう
ただこの理論が正しいなら「自由意志」は普通にあると思える

自由意志の有無、意識の不死、存在が存在する理由、そのようなものは永遠に解決不可能な謎として残るだろう

証明方法が何もないので本当に純粋な想像になる

～「論理」とは何か～

究極集合は"物理的"には存在しないと結論を出している

つまりそれが正しいなら宇宙は単純に"数学"で作られていないということになる

論理とは何なのか？

それはおそらく、"それ"を正しいと思う心じゃないだろうか

"それ"というのは例えば $1+1=2$ というようなもの

$1+1=4$ というのを見たらもやっとした気持ちになるだろうが、しかし $1+1=2$ の時はそうはならない

つまりそのような"正しいと思う心"の様々なパターンが論理なのではないだろうか

そしてそのような心こそが情報（数学）の真の正体であり、それが論理的に複雑に組み合わさる事によって現実は成り立っているのだろう

つまり"正しいと思う心"（論理）をベースとした"純粋なクオリア"で現実は構成されている
と考えることができる

個人的メモ：1 + 1 = 2の証明が難しい理由

<https://math-jp.net/2018/05/08/1-plus-1-equal-2-proof/>

※上記の内容は、<https://newphilosophy.net/simulation.html> このサイトの引用を中心としたまとめである

まとめ（個人的解釈も含む）

①神の頭脳／完璧なコンピュータ（意識と論理の源）

- ・意識の正体（意識 ⇔ 神の頭脳）
- ・数学のパターンではなく数学を超えた存在（科学的に説明不可）
- ・非意識
- ・論理とは何か？ ⇒ それはおそらく、"それ"を正しいと思う心
"正しいと思う心"（論理）をベースとした"純粋なクオリア"で現実は構成されている
- ・なぜ存在するのか？なぜ誕生したのか？ 永遠の謎

②脳／コンピュータ（シミュレーション実行側）

- ・情報として記述可能
- ・波動関数は情報で構成されている
- ・必要に応じて集合精神に入ったり出たりするタイプ（弱いハイブマインド）
フェルミのふるいに引っかからない+イデアリズム的なソリプシズム

[内在秩序](#)、[ホログラム](#)、[超弦理論](#)、[ループ量子重力理論](#)、[量子情報](#)

[2.5]「意識の主」が経験する様々な可能性

- ・今後体験する可能性のある現実の究極集合もどき⇒イデア

[集合的無意識](#)、[阿頼耶識](#)、[臨死体験](#)で見る世界？ [輪廻転生](#)？ [神秘体験](#)？

③現実（ある存在の視点から見た世界）

- ・記憶を完全に忘れる形でその人物に入り込む
- ・「別の意識の主」が"この世界"に該当する自分以外の人生を経験しており、その「意識の主達の人生」は更に上の層の水槽の脳のシミュレーションによってある一つの意識の主が経験している
(ソリプシズム（独我論）だが、イデアリズム（観念論）的でもある)
- ・人の脳も動物の脳もそしてAI（強いAI）も性能やデザインに違いがあるだけで基本的に

全て同じ

- 物質的性質は現象的性質（意識）が感じ取っている幻にすぎないのでどの層にも存在していない
- 現象的性質は現実でのみ存在する（情報が意識経験を形作っている）
ゆえに、（意識の主の視点からすると）死後、目が覚めたその世界が次の現実（シミュレーション内の世界）になる
輪廻転生、意識の不死 **永遠の謎**
- 意識の主の"深層心理"が現実ルールを与える事によって「現在の意識の主」に現実を自在にコントロールできないようにさせている ⇒ なぜか？ **永遠の謎**
- 全ての宇宙（現実）が決定論（記憶の転送）で構成されているとしても、どの決定論の現実に通りに着くかが決まっていない
（つまり、ADVのギャルゲーみたいなもの）
どうやってその「選択」は行われているのか？ **永遠の謎**

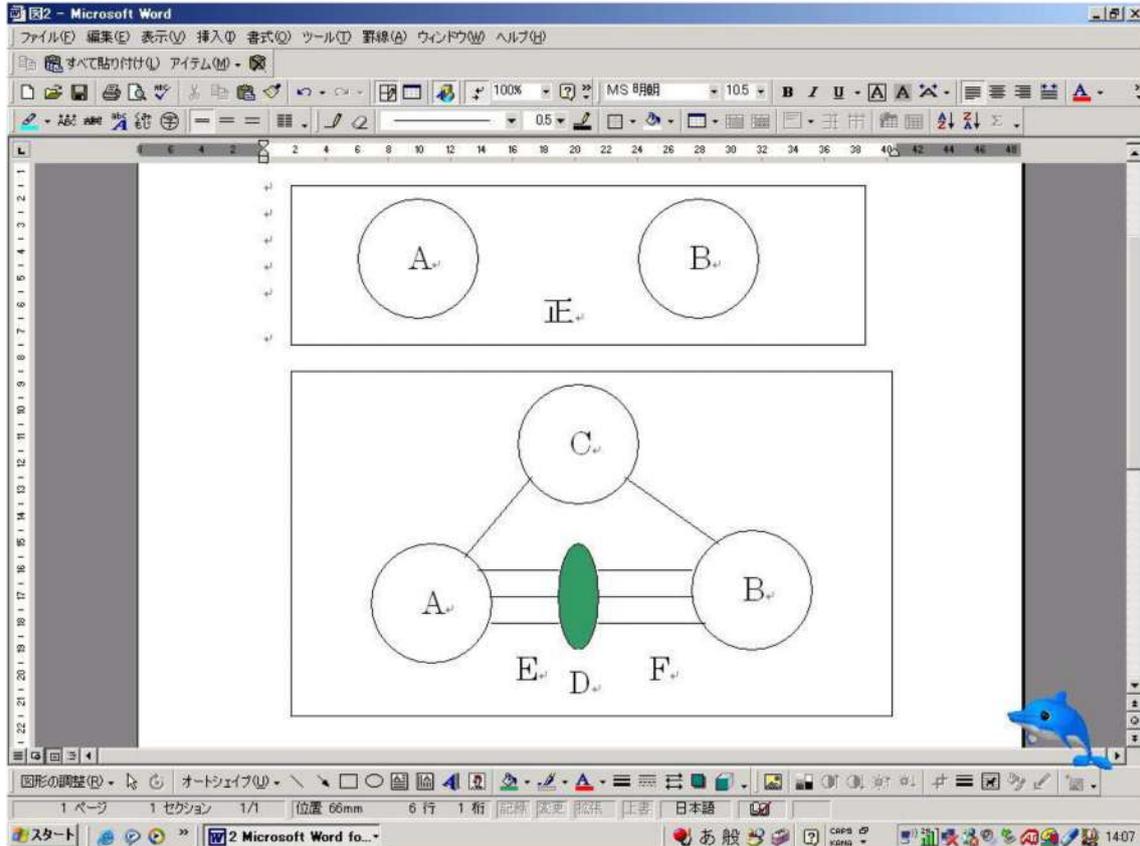
量子脳理論、脳ホログラフィー理論

※究極集合もどきを考慮した場合、情報の数に制限がないのであれば、量子力学の解釈に決まった答えはない⇒ ゆえに、**量子力学のどの解釈であってもこのシミュレーション仮説は成り立つ**

～宇宙創造の秘密—高次元宇宙論的自己組織化論～

<https://blogs.yahoo.co.jp/jyuudou3104> ※以下、このサイトの内容を引用

弁証法的発展による、高次元宇宙論的自己組織化論



- A：運動、変化、進歩の観念
- B：存在、静止、調和の観念
- C：AとBを統合止揚する観念
- D：3次元宇宙
- E：運動という最低次の観念の流れ
- F：存在という最低次の観念の流れ

A、B：宇宙の創造以前にあった高次元の観念

※存在と運動は元々矛盾したもの（ゼノンのパラドックス）

※量子力学の相補性の原理により導き出される2つの観念

D：観念AとBが統合止揚されて、Dの4次元時空と素粒子が誕生

※素粒子は精神（最低次な）

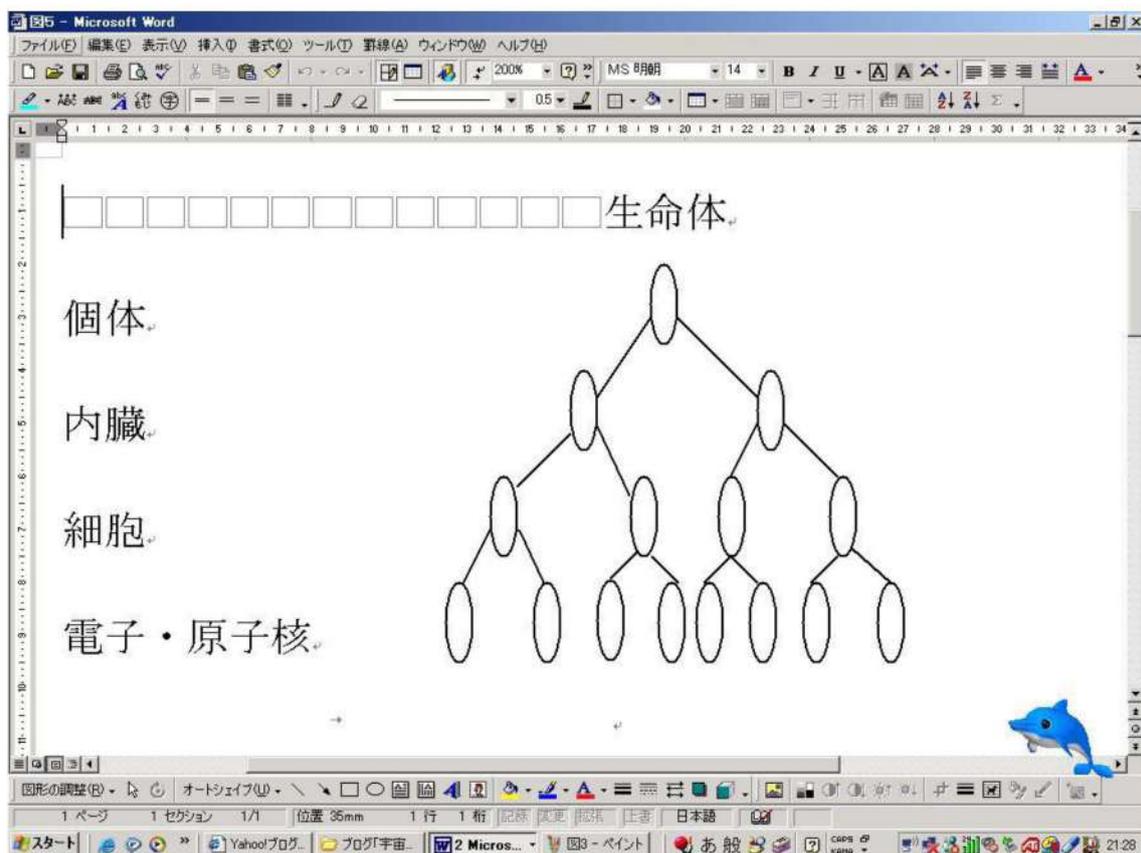
C：神の観念（精神場、さらに高次に止揚してアイデアとしての生命場）

※両観念に高次の観念の交流を実現するためには、素粒子という最低次の観念の流れを複雑に組み合わせなくてはならない。これが、生命が複雑な構造を持つ理由。

この止揚が最も質の次元の低い素粒子の生成から、人間に至るまであるいは人間創造後文明も高度化していくように一段一段質の高い精神を止揚して創造していく。これが宇宙の進化。

個人というものは、同一の極めて高次の精神が分化して顕在化した存在。

精神が身体を動かす主体であることは、素粒子の確率波が精神によって変化を受けていると考えることによって自由意志の説明が可能。



高次元時空：生命場、精神場（2つを秩序場）

高次元の場が物質場に作用して秩序が生成

【裏付け情報】

臨死体験、輪廻転生、神秘体験

～ユング心理学～

・様々な世界の神話や宗教の共通性を、元型が存在すると仮定される領域（集合的無意識）で説明

研究：全人類共通の「集合的無意識」は確実に存在する！ 「ブーバ/キキ効果」実験で判明（最新研究）https://tocana.jp/2017/02/post_12372_entry.html

>科学ジャーナル「Psychological Science」に掲載された論文で、シンガポール南洋理工大学とシンガポール国立大学の研究者らが「ブーバ/キキ効果」が従来考えられていたよりも、さらに深く人間の無意識と関係していることが分かった。

～仏教～

・意識領域の最も深い領域にある、阿頼耶識に業や煩惱が蓄えられ、来世に継承されることにより輪廻転生される
・仏教、バラモン教等の東洋思想における、人生の目的は「煩惱の解消による涅槃の境地に至ることによる、輪廻転生の輪からの解脱」

～プラトン哲学～

・プラトンの哲学における、人生の目的は「徳を積むことによる、輪廻転生の輪からの解脱による、天上界への帰還」

※古代ギリシャの密儀宗教「オルペウス教」の基本教義「魂と肉体の二元論、転生、輪廻からの最終解脱」（輪廻転生からの解脱という概念は、インドのバラモン教と酷似する）から影響を受けた、ピタゴラス学派からの影響

オルペウス教：<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/tiakio/antiGM/orpheus.html>

～量子脳理論（ロジャー・ペンローズが有名）～

・意識 ⇔ 量子情報、死後、量子情報は脳から離れ、宇宙（哲学者アーヴィン・ラズロの言葉を借りるなら、量子真空）に拡散された後、量子情報の継承による輪廻転生が行われる

～幻覚作用、変性意識による宗教の誕生～

- ・ユダヤ教⇒ アカシアの樹皮の調合薬
- ・バラモン教⇒ ソーマ
- ・ゾロアスター教⇒ ハオマ
- ・仏教⇒ 座禅瞑想
- ・ユング心理学⇒ 精神病的な幻覚—自分自身の無意識との対話
- ・プラトン⇒ ディオニューソス崇拝：ブドウ酒 オルペウス教：禁欲的瞑想

>聖書など多くの宗教書が靈感をもとに書かれている。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9C%8A%E6%84%9F>

～神秘体験と脳科学～

>ペンシルバニア大学のアンドリュー・ニューバーグは、深い瞑想状態や祈りの状態にある者の脳内の神経学的変化を研究した。ニューバーグによると、深い祈りを込めた瞑想は、上頭頂葉後部の活動を低下させ、血流量を減少させていた。また瞑想者のメラトニンやセロトニン濃度は上昇し、コルチゾールやアドレナリン濃度は低下していた。前者 2 つのホルモンはリラックス時には上昇し、後者 2 つはストレス負荷により上昇するので、この変化は理に適っているとした。

こうした研究成果は、あくまでも脳と体験に「対応関係」がある事を示すものである。(脳内の変化が体験を生み出すという因果関係を証明するものではない。) ニューバーグは、瞑想時における様々な神秘体験が「客観的な現実であるか」と問われた時に、それは「神経学的な現実」であると返している。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E7%A7%98%E4%BD%93%E9%A8%93>

>宗教的な観点のみならず、科学的にも霊体験は完全には否定されていない。諏訪東京理科大学の篠原菊紀教授は、脳科学者の立場から解説する。

「人間が目や耳などから受け取る情報は膨大なので、脳内で情報の取捨選択や加工処理が行なわれます。つまり、“何かが見えるか見えないか”の境界はその対象が目の前にあるか否か、ではなく、最終的に脳の視覚を司る部分が反応するかしないかで決まります。

目を閉じて誰かの顔を思い浮かべるのが可能なのと同じように、実際にはいないはずの人が目の前にいるように見えるということも起こり得ます。夢を見るのも同様で、“目に見えないものを見る”ということ自体は、脳科学的にはそう不思議なことではないのです」

https://www.news-postseven.com/archives/20170331_505192.html?PAGE=3

>マイケル・パーシンガー博士「超常体験は脳への磁気刺激が生み出す」

<https://wired.jp/2002/04/23/%E8%B6%85%E5%B8%B8%E4%BD%93%E9%A8%93%E3%81%AF%E8%84%B3%E3%81%B8%E3%81%AE%E7%A3%81%E6%B0%97%E5%88%BA%E6%BF%80%E3%81%8C%E7%94%9F%E3%81%BF%E5%87%BA%E3%81%99%E5%B9%BB%E3%81%8B/>

脳神経外科医エベン・アレグザンダー氏の臨死体験

http://tocana.jp/2016/05/post_9881_entry.html

<http://ikiruimi.jp/sigo/sigonosekai-kagaku/>

関連 URL：臨死体験者が証言する「あの世の世界」が量子脳理論とそっくりな件

<http://ikiruimi.jp/sigo/ryousinou/>

イアン・スティーヴンソン博士による「生まれ変わり事例」研究

ヴァージニア大学精神科主任教授イアン・スティーヴンソン博士は、2300 例ほどの事例を基に生まれ変わりについての研究を行った。

結論としては、全ての仮説を検討した結果、最終的に最も妥当な解釈として残るのが「生まれ変わり説」であった。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%BB%E3%82%B9%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%B4%E3%83%B3%E3%82%BD%E3%83%B3>

顕在意識と潜在意識

『自我、人格、顕在意識』は後天的なものであり、記憶の連続性により生じる。

『潜在意識以下の領域』に先天的な自分（魂）がある。

（ユング心理学、仏教、モーガン・フリーマンが語る宇宙「脳と魂とアイデンティティー」から解釈）

シェルドレイクの仮説

形態形成場の存在を提唱

(形態形成場 ⇨ 集合的無意識の存在の証明?)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%82%A7%E3%83%AB%E3%83%89%E3%83%AC%E3%82%A4%E3%82%AF%E3%81%AE%E4%BB%AE%E8%AA%AC>

予知能力

「全ての人間は1~10秒後の出来事を感じている」30年間の研究で判明！ 予知能力の存在が確定！

(『今後体験する可能性のある現実の究極集合もどき』の存在証明?)

https://tocana.jp/2018/05/post_16954_entry.html

量子チェシヤ猫

【幽霊の証明!?!】「量子チェシヤ猫」を実験で実証、ウィーン工科大の長谷川祐司准教授ら(性質だけ存在 ⇨ 内在秩序の存在証明?)

<http://world-fusigi.net/archives/7431470.html>

東京ビッグサイト「エンディング産業展」より



素粒子にも意識がある？

素粒子にも意識がある!? 生命の定義を問い直す「宇宙＝生命体」論の端緒
(観念論 or 独我論の証明?)

<http://gakkenmu.jp/column/16312/>

>最近、マクロな視点でも非実在性（だれも見えていない間は存在していない）の可能性が指摘されている。NTTと米イリノイ大学の実験で、量子から見れば巨視的状态となる電流状態でも非実在性が確認されたという。

>中央ヨーロッパ大学の准教授フィリップ・ゴフによると、木や石や電気も意識を持っているという。神道的な考え方だが、これは「パンサイキズム」と呼ばれる科学理論なのである。

>この仮説で思いだしたのが、遠隔透視の第一人者であるジョー・マクモニーグル氏の話だ。

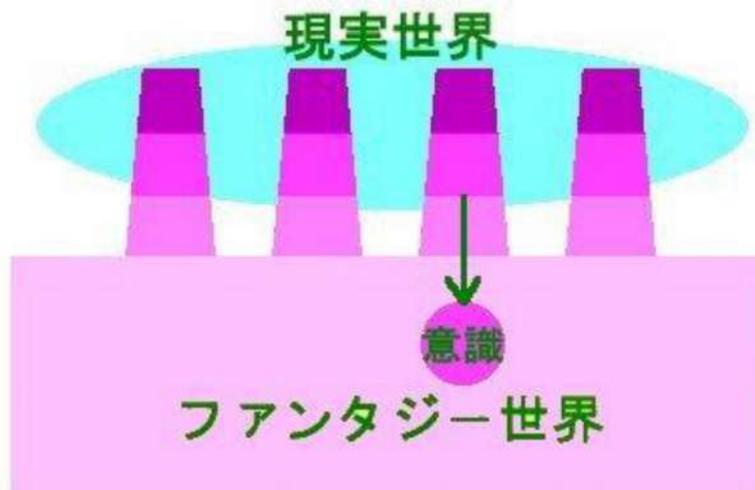
食事中、彼はある体験について話しはじめた。それによると彼は、かつて物理学者のために遠隔透視で素粒子を見たことがあるのだという。そのとき、なんと素粒子にも意識があることに気づいたというのだ。

【多重人格、イマジナリーフレンド】

～多重人格、イマジナリーフレンド解釈のヒント?～

<http://lanopa.sakura.ne.jp/column/giworamu.html> ※このサイトから引用

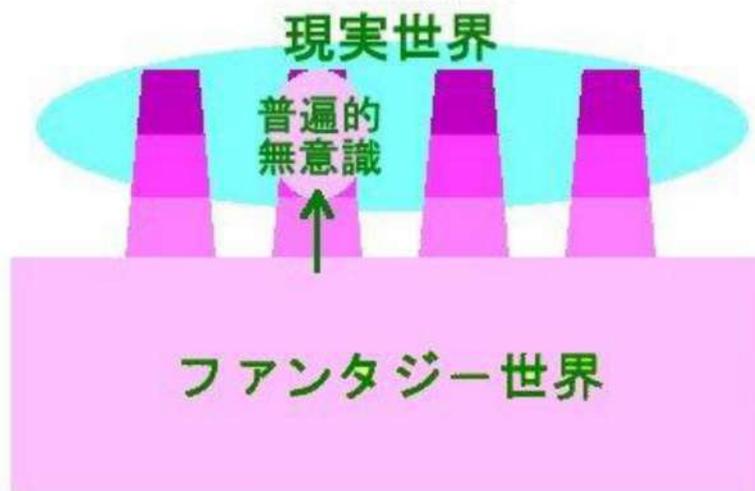
「現実世界から異世界に行くファンタジー」に当てはめてみる



※画像：<http://lanopa.sakura.ne.jp>

「現実世界から異世界に行く」ということは、人の「意識」が何かの拍子に「普遍的無意識」へとストンと落ちてしまうことだと解釈できる

「異世界から現実世界に来るファンタジー」に当てはめてみる



※画像：<http://lanopa.sakura.ne.jp>

「異世界から現実世界に来訪者が来る」ことは、人の「普遍的無意識」が何らかの原因で「意識」へと浮かび上がってくることだと言い換えられる

脳はどこから「もうひとつの世界」を創るのか—創造的な作家たちの内なる他者を探る

<https://susumu-akashi.com/2017/10/stranger-within/>

>>意識的な自己である左脳、無意識の「内なる他人」である右脳

※左脳と右脳は複雑な相互作用をもっているため、ばつさり分けられるわけではない

>>幻聴の原因は、心のなかの発話を自分のものと認識できないことにある。

(脳神経科学者のオリヴァー・サックス：見てしまう人びと:幻覚の脳科学 より)

本来、自分自身の考えは、当然、自分のものと認識されるはずですが、「内なる声」が聴こえてしまう人は、そのための抑制機能が壊れているか十分に発達してしないのではないかとされています。

現代社会のほとんどの人は「内なる声」を認識しませんが、じつはそうした人たちのほうが人類史的には珍しく、古代の人たちは「内なる声」を当たり前のように聞いていた、というのです。

びっくりするような話ですが、確かに、ここに書かれているように、古代の文明の人たちは、今よりも神や精霊などの超自然的存在を身近に感じていたのではないのでしょうか。それは単に科学が進歩していなかったせいで宗教心が強かったということではなく、じつは「内なる他者」の声を日常的に聴いていて、それを神や精霊の声だと見なしていたからではないかと彼は言います。

(書きたがる脳 言語と創造性の科学 より)

さまざまな神話や宗教は、まだ「内なる声」を聞いていた時代の人たちが体験した、空想上の友人(イマジナリーフレンド)体験などに端を発しているのかもしれない。

書きたがる脳 言語と創造性の科学によると、わたしたちは誰でも、子どものころは、まだ脳梁の働きが弱いこともわかっています。

わたしたちは誰でも、幼いころは、脳梁があまり発達していないせいで、左右の脳の活動がまばらで同期していません。言い換えれば、左脳の自己と、右脳の「内なる他者」が別々に振る舞いやすい、ということです。

「内なる声」が聞こえる古代社会の人々と、「内なる別の世界」を持つ子どもに共通しているのは、どちらも未就学だということです。

現代でも、教育があまり普及していないアフリカなどの国々では、「神」の声を日常的に聴

いていた昔の人たちと同じように、病的とは限らない自我異和的な幻聴を聞く人が多いようです。

>> 見てしまう人びと: 幻覚の脳科学には、米国のアルバロ・パスカル＝レオーネ教授による、健康な人に96時間目隠しを続けてもらうという実験が載っていました。

その結果、13人中10人もの人が幻覚を見ましたが、個人差があって、目隠しをしてから数時間で幻視が見えた人もいれば、2日後に見え始めた人もいました。ほとんどは数秒、数分のみで幻視でしたが、一人だけほぼ途切れなく見た人がいたそうです。

『幻覚には独自の「心」または「意思」があるように思われた』

これはつまり、見えた幻視は「自我異和的」だったと言えるからです。

無意識をつかさどる右脳が、勝手に、自発的に、欠けているものを「埋め合わせ」るかのようイメージを再生するので、自分でも思っても見なかったような、意外な映像が見えます。それは、自分では想像だにできなかったものなので「自我異和的」だと感じます。

長時間目隠しをされたときの幻視、入眠時幻覚、共感覚、ドラッグ体験のいずれにも共通しているのは、あたかも「別次元」「別世界」「地上では見ることができない」ような風景が見えてしまうということです。

イマジナリーフレンド(IF) 実在する特別な存在をめぐる4つの考察

https://susumu-akashi.com/2015/01/imaginary_friend/

>> わたしたちの脳は精神的なフィルターがかかっているおかげで、大量の情報に圧倒されないようになっています。その場その場で必要な情報だけ取捨選択して処理しているのです。

しかしこのフィルターをかける程度には個人差があります。創造性の豊かな人は、このフィルターの一種「潜在抑制」の機能が低下しているそうです。これが認知的脱抑制です。

解離性障害は脳の一部だけ眠る睡眠障害かもしれない—覚醒と夢のはざまの考察

<https://susumu-akashi.com/2016/01/local-sleep/>

>>起きている間に別人格に切り替わる解離性同一性障害と、眠るとともに別の人格のように行動するノンレムパラソムニア。

寝入りばなに入眠時幻覚を見るナルコレプシーと、起きながら幻視を見る解離性障害。

さらには睡眠不足の子どもが ADHD に似る多動症状と、解離傾向の強い子どもがやはり ADHD に似る反応性愛着障害。

こうしたさまざまな睡眠障害と解離の共通点を探していくうちに、解離性障害とは脳の一部が眠る、ローカルスリープの睡眠障害ではないか?という着想を持ちました。

ノンレムパラソムニアと同様、解離性同一性障害の場合も、やはり人格交代の際には一瞬眠るのです。

病的な状態までいかなくても、実は日々の正常な睡眠においても私たちの睡眠は、「脳全体」ではなく「脳の部分」で起こるといのである。

脳は、全体が一度に眠るわけではなく、部分的な睡眠の集合体として、夜の睡眠が生じているのです。

断眠状態というストレス環境に置かれたマウスでは、起きている状態でも、脳の一部が眠ってしまうのが確認されたということです。

ノンレムパラソムニアは、リー・ハドウィンの脳波のように、脳が眠ってノンレム睡眠の状態にあるのに、ある一部だけ局所的に起きている状態だと考えられます。

それに対し、解離性同一性障害は、脳は基本的に起きている状態なのに、脳の一部だけが眠りについていてる状態かもしれません。

解離性同一性障害の人は、起きながら、半分夢の中に生きている可能性があるのです。

解離性障害の人は、現実と夢の区別もつかないほど鮮明で五感の感触を伴う夢を見やすいそうです。

脳がレム睡眠状態にあるのに、一部だけ起きていると金縛りや体外離脱といった奇妙な現象が生じます。

解離性障害の患者が寝るときにこれらの現象を感じやすいことは、やはり寝ているときに脳の一部が起きていることを示しています。

また解離性障害では、起きているときに何かの拍子で幽体離脱が起こる人もいますが、これは逆に起きているのに脳の一部が瞬間的に眠ってしまうことによって考えられます。

解離性同一性障害患者では、つらい記憶を思い出させたときに違った別々の領域が同時に働いていることがわかり、一つの脳に2つ以上の自我が存在することが示唆された。内側前頭前野とその後方部を中心とした領域に、自我を統合する役割があるらしい。(いやされない傷—児童虐待と傷ついていく脳 より)

脳の用いられるネットワークが少し変化するだけで、それが織りなす人格は別のものとなる可能性があります。

わたしたちの人格は、固定されたものではなくて、用いられる神経細胞の内容に基づいて構成されているものだと考えられるからです。

ASDの人が起きている間に経験するフラッシュバックなどの現象は、本来、深いノンレム睡眠中に行われる記憶処理が、起きている間にも生じていることを意味しているのではないかと。

そのような脳の変化がすなわち解離の本質であるとするならば、覚醒中にも記憶を処理する睡眠のプロセスが生じるのは、圧倒されるような不安情報を処理しようとする適応なのかもしれません。

多重人格、イマジナリーフレンドは、無意識（はたまた集合的無意識）が大きく関わっている

個人の自我、意識そのものが「ハイブマインド」的である可能性

【自己解釈】

自由意志と決定論について

全ての宇宙（現実）が決定論（記憶の転送）で構成されているとしても、どの決定論の現実に辿り着かが決まっていな（つまり、ADVのギャルゲーみたいなもの）

どうやってその「選択」は行われているのか？

候補：ランダムによるもの、深層心理が決めている、自由意志がある

<https://newphilosophy.net/simulation/immortal.html>

私個人の考えでは、深層心理に多大な影響を受けた自由意志により決められていると思う（自由意志はあるが、深層心理の影響力が非常に大きいと考える）

人生の目的とは

一切皆苦 — 人生は思い通りにならない

まず、お釈迦さまは、私たちの世界は自分の思い通りにならないことばかりである、という真理を説いています。仏教の「苦」とは、単に苦しいということではなく、「思い通りにならない」という意味です。

<https://www.nichiren.or.jp/buddhism/shaka/02.php>

「思い通りにならない」

人によってはそれが苦しみになる

人によってはそれが楽しみになる（参照：『偶有性幸福論』江原 啓之（著）、茂木 健一郎（著））

普遍の真理としての、人生の目的や意味というのは存在しないのかもしれない

⇒人の捉え方や解釈にすぎない

野生の世界、自然界は厳しい世界で、一見苦に満ちた世界のように思える

だが、それは人間基準の考え方であり、動物たちは苦だとは思っていないのではないか

逆に、動物園という、安全で食にも困らない一見楽そうに見える世界は、むしろ動物にとっては苦なのかもしれない

>なぜ動物園の動物達は同じ所を行ったり来たりしているのか？

<https://matome.naver.jp/m/odai/2138219676691572801>

自由とは何か？ → あなたの心の中は常に「自由」だ

釈迦の教えは「世の中の構造」を説いているのかもしれない（意味や目的ではなく）

なぜ（身体的）苦痛は存在するのか？（なぜこの世はこういう設定なのか？）

- ・地球という名の実験室、または宇宙という名の実験室により、生命や宇宙そのものが最適化進化していき、その結果現在の設定になったのではないか
- ・未設定のデフォルト原意識が初めから存在していて、そこから様々な宇宙が出現して最適化進化していく中で、今のような設定になった

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%80%E9%81%A9%E5%8C%96%E3%83%A2%E3%83%87%E3%83%AB>

もしくは、

「弁証法的発展による絶対精神の自己展開」が人生の目的であり、宇宙の目的であるといえる

<https://blogs.yahoo.co.jp/jyuudou3104>

なぜ生命は誕生したのか？（なぜ原意識は生命体として生まれるのか？）

もしかしたら、原意識はあくまで因縁の因であり、物理世界の縁があって初めて、意識体として存在できるのかもしれない

参考：

因縁とは？<http://true-buddhism.com/teachings/innen/>

色即是空とは？<http://true-buddhism.com/teachings/shikisokuzeku/>

補足

> 個体それぞれは利己主義かもしれないが、最も単純な生命でさえ いざとなれば種の生存を優先し利他主義的行動をとる（モーガン・フリーマンが語る宇宙「貧富と遺伝」より）

https://photofess.com/entropy/tv_20171104_1/

>（シミュレーション仮説）人の脳も動物の脳もそして AI（強い AI）も性能やデザインに違いがあるだけで基本的に全て同じ ⇒ この証明となりえる？

夢とは何か？

分析心理学（あるいはユング派）においては、夢は無意識、特に集合的無意識あるいは元型から意識に向けてのメッセージである

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A2%E5%88%86%E6%9E%90>

『意識の探求』クリストフ・コッホ著

—意識の神経科学からのアプローチ

<http://d.hatena.ne.jp/inugamikoubouathangul/20160604/1465000083>

・非意識的ホムンクルス：仮称される部位で、意思決定を行う部位

⇒（個人的解釈）非意識的ホムンクルス ≡ 阿頼耶識

意識の統合情報理論（ジュリオ・トノーニ）

>意識には、情報の多様性・情報の統合という二つの基本的特性があり、ある物理系が意識を持つためには、ネットワーク内部で多様な情報が統合されている必要があるとされる

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%84%8F%E8%AD%98%E3%81%AE%E7%B5%B1%E5%90%88%E6%83%85%E5%A0%B1%E7%90%86%E8%AB%96>

経頭蓋磁気刺激法で脳の特定の部分を刺激すると、覚醒時は各部位で様々な脳波形が生じる。反対に深い睡眠時には刺激部位以外での脳波が観測されない。

～自己解釈～

この覚醒時の各ニューロンの統合的に影響し合っている脳波形は、「量子もつれ」によって影響し合っているのではないか。

量子もつれによる統合的な作用こそが意識の源である。

（すなわち量子脳理論でもある）

量子もつれによって時空が形成されるように、量子もつれによって意識が形成される。

つまり我々の意識、脳は一種の「小宇宙」といえる。

情報は決して失われない

物理法則によると「情報は決して失われない」とされる。

つまり、我々の意識や魂も情報であるならば、死後も決して失われるわけではないと考えることができる。

ホログラフィック原理によると、情報は二次元の平面に保存されている。

もしその二次元の平面が内在秩序を意味するものであるならば…

意識や魂の根源は内在秩序に存在し、決して失われることのない情報であるといえる。

【自己提唱モデル】

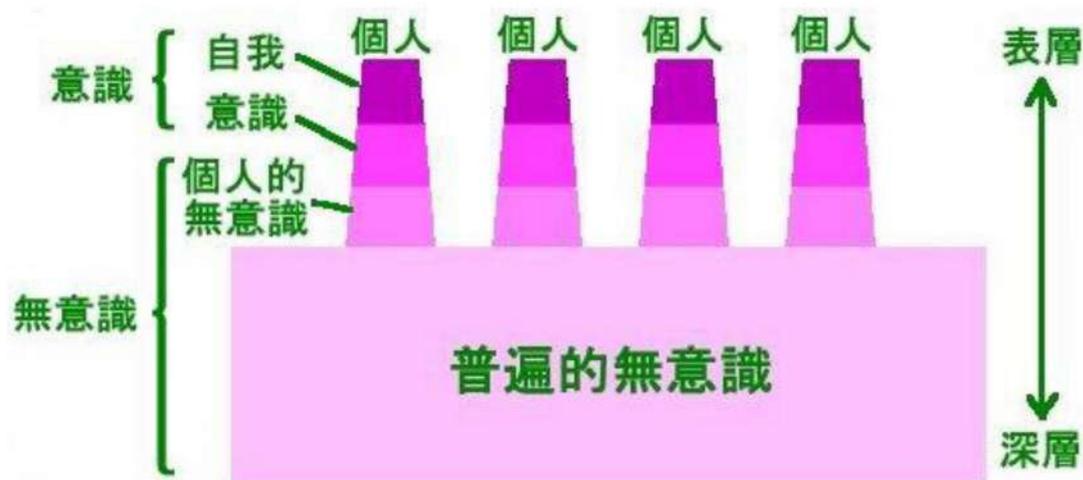
様々な文献を参考に、自己考察した結果行きついた結論

この世の多重人格モデル

- ・ 神の頭脳 ⇒ 基本人格（非意識）
- ・ Aさん、Bさん、1人1人の意識 ⇒ 交代人格
- ・ さらには、個人の意識や自我もハイブマインド的である

意識の源を量子と捉えると、
複数の量子が組み合わさって1人の意識は生まれ、
死後、神の頭脳に吸収される
そして別々の量子が組み合わさって新たな1人の意識が生まれる

だが、“私”という1人の人物の意識は、死後永遠に失われるわけではない
“私”＝他人であり、“私”の意識が他人と統合されても、その統合された人物は“私”
自身であり、他人自身でもあるのだから



※借用画像：<http://lanopa.sakura.ne.jp>

※個人というものは、同一の極めて高次の精神が分化して顕在化した存在
宇宙創造の秘密 <https://blogs.yahoo.co.jp/jyuudou3104> より

【まとめ】

①神の頭脳／完璧なコンピュータ（意識と論理の源）

- ・意識の正体（意識 ⇔ 神の頭脳）
- ・数学のパターンではなく数学を超えた存在（科学的に説明不可）
- ・非意識
- ・論理とは何か？ ⇒ それはおそらく、"それ"を正しいと思う心
"正しいと思う心"（論理）をベースとした"純粋なクオリア"で現実は構成されている
- ・なぜ存在するのか？なぜ誕生したのか？ 永遠の謎

運動の観念と存在の観念を統合止揚する神の観念

②脳／コンピュータ（シミュレーション実行側）

- ・情報として記述可能
- ・波動関数は情報で構成されている
- ・必要に応じて集合精神に入ったり出たりするタイプ（弱いハイブマインド）
フェルミのふるいに引っかからない+イデアリズム的なソリプシズム

内在秩序、ホログラム、超弦理論、ループ量子重力理論、量子情報、量子チェシャ猫精神場、さらに高次に止揚してイデアとしての生命場

[2.5]「意識の主」が経験する様々な可能性

- ・今後体験する可能性のある現実の究極集合もどき⇒イデア

集合的無意識、阿頼耶識、臨死体験で見る世界、輪廻転生、神秘体験、形態形成場

神話、宗教、幻覚や靈感で見える世界、夢の世界、予知能力で見える世界

多重人格、イマジナリーフレンド

非意識的ホムンクルス

③現実（ある存在の視点から見た世界）

量子脳理論、脳ホログラフィー理論

- ・記憶を完全に忘れる形でその人物に入り込む
- ・「別の意識の主」が"この世界"に該当する自分以外の人生を経験しており、その「意識の主達の人生」は更に上の層の水槽の脳のシミュレーションによってある一つの意識の主が経験している
（ソリプシズム（独我論）だが、イデアリズム（観念論）的でもある）
- ・人の脳も動物の脳もそして AI（強い AI）も性能やデザインに違いがあるだけで基本的に全て同じ
- ・物質的性質は現象的性質（意識）が感じ取っている幻にすぎないのでどの層にも存在していない ⇒ 素粒子にも意識がある？

素粒子とは、運動の観念と存在の観念が統合止揚されて誕生したものであり、素粒子は最低次の精神

- ・現象的性質は現実でのみ存在する（情報が意識経験を形作っている）
ゆえに、（意識の主の視点からすると）死後、目が覚めたその世界が次の現実（シミュレーション内の世界）になる
輪廻転生、意識の不死 ⇒ 臨死体験、生まれ変わり事例研究
- ・意識の主の"深層心理"が現実ルールを与える事によって「現在の意識の主」に現実を自在にコントロールできないようにさせている ⇒ なぜか？ 進化による最適化の結果だと思ふ（弁証法的発展による統合止揚による進化）
- ・なぜ生命は誕生したのか？ ⇒ 原意識はあくまで因縁の因であり、物理世界の縁があって初めて、意識体として存在できるのだと思ふ
- ・人生の目的 ⇒ 存在しないのかも（捉え方にすぎない） もしくは、「弁証法的発展による絶対精神の自己展開」
- ・全ての宇宙（現実）が決定論（記憶の転送）で構成されているとしても、どの決定論の現実に通じ着くかが決まっていない
（つまり、ADVのギャルゲーみたいなもの）
どうやってその「選択」は行われているのか？ ⇒ 深層心理に多大な影響を受けた自由意志により決められていると思ふ
（量子力学の解釈 ⇒ 意識による作用も示唆：地球意識プロジェクト）
- ・『自我、人格、顕在意識』は後天的なものであり、記憶の連続性により生じる
『潜在意識以下の領域』に先天的な自分（魂）がある
- ・この世に存在するもの全ては、この世が創り出した芸術作品といえる

※究極集合もどきを考慮した場合、情報の数に制限がないのであれば、量子力学の解釈に決まった答えはない⇒ ゆえに、量子力学のどの解釈であってもこのシミュレーション仮説は成り立つ

※_____は私個人の自己解釈の要素が強い

●【自己提唱モデル】この世の多重人格モデル

- ・神の頭脳 ⇒ 基本人格（非意識）
- ・Aさん、Bさん、1人1人の意識 ⇒ 交代人格
- ・さらには、個人の意識や自我もハイブマインド的である
（弱いハイブマインド、イデアリズム的なソリブシズムといえる）

※個人というものは、同一の極めて高次の精神が分化して顕在化した存在

【影響を特に受けた情報源】

- ・『モーガン・フリーマンが語る宇宙』
ディスカバリーチャンネル ドキュメンタリー番組
- ・『投影された宇宙—ホログラフィック・ユニヴァースへの招待』
著：マイケル・タルボット
- ・『生ける宇宙—科学による万物の一貫性の発見』
著：アーヴィン・ラズロ
- ・『まじめなとんでもない世界』
著：奥健夫
- ・『ここまで来た「あの世」の科学』
著：天外伺朗
- ・『脳はいかにして“神”を見るか—宗教体験のブレイン・サイエンス』
著：アンドリュー・ニューバーグ
- ・『意識の探求—神経科学からのアプローチ』
著：クリストフ・コッホ
- ・『脳は空より広いか—「私」という現象を考える』
著：ジェラルド M. エーデルマン
- ・『意識はいつ生まれるのか—脳のパズルに挑む統合情報理論』
著：ジュリオ・トノーニ
- ・『「臨死体験」が教えてくれた宇宙の仕組み』
著：木内鶴彦
- ・YouTube チャンネル『白坂慎太郎』
再生リスト『哲学入門』
- ・YouTube チャンネル『白坂慎太郎』
再生リスト『宗教入門』
- ・Web サイト『生物史から、自然の摂理を読み解く』
君もシャーマンになれるシリーズ
<http://www.seibutsusushi.net/blog/>
- ・Web サイト『仏教ウェブ入門講座』
<http://true-buddhism.com/>
- ・Web サイト『宇宙の謎を哲学的に深く考察しているサイト』
<https://newphilosophy.net/>
- ・Web サイト『宇宙創造の秘密』
<https://blogs.yahoo.co.jp/jyuudou3104>
- ・Web サイト『ライトノベル・ファンパーティー』
投稿コラム「心の中の王国」 ぎをらむ

<http://lanopa.sakura.ne.jp/column/giworamu.html>

- ・ Web サイト『生きる意味を知りたいあなたへ | 運命を変える引き寄せの法則ブログ』
カテゴリー「死後の世界」

<http://ikiruimi.jp/category/sigo/>

- ・ Web サイト『東京大学 国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構』
量子もつれが時空を形成する仕組みを解明 ～重力を含む究極の統一理論への新しい視点～

<https://www.ipmu.jp/ja/node/2175>

おすすめの本

- ・ 『まんがでわかる 量子論【新装増補版】』

著：竹内 薫（著）、松野 時緒（イラスト）、藤井 かおり（執筆協力）

【補足】

■ 科学

ある対象のパターン解析。

そしてそれ以上の意味はない。

実験とそのデータを表す数式のみ。解釈は存在しない。

■ 哲学

宇宙（現実）について論理的に考えること。

そしてその為には知識と想像力が必要。

だが科学抜き哲学はただの思考実験で話が終わる。

（現実というのは誰かが見ている夢のようなものじゃないのかというような推測だけで話が終わる）

これは実際に定義するのは難しい。

■ 宗教

人生の意味をその考えに求めるもの。

そして科学や哲学抜きでは非論理的。

内面的な性質（意味）

実験、データ、数式のみを扱うのが科学

その科学を、論理的に解釈し考えるのが哲学

さらに、意味や目的を求めると宗教になる

ソース：<https://newphilosophy.net/philodif.html> + 自分のメモ

【なぜ何もないのではなく、何かがあるのか】

Wikipedia より

>量子宇宙論によれば、偽の真空 (false vacuum) の量子ゆらぎからこの宇宙が始まったとされる。そしてこの「偽の真空」はしばしば「無」と表現される[67]。そしてこの理論により「無からの創造」として存在の問題が説明された、などとする場合がある。実際この量子宇宙論により、本稿の問いに対してもう説明されるべきことは何も無くなった、とする哲学者もいるが[68]、しかし哲学者たちの多くはこの考えには満足していない。その理由は偽の真空が「無」とは言いがたい明確な内的構造を持つためである。ある哲学者は、物理学者の言う (偽の) 真空は、無ではなく物理的対象である、と表現する。また、ある神学者は「物理学者の言う真空は、無と言うよりも混沌 (ケイオス) と言ったほうが適切である」と指摘する。つまり「なぜ何もなかったのではなく、量子力学の法則にしたがってゆらぐ (偽の) 真空があったのか」という形に問いが置き換わるだけで、問題は依然として残存するだろう、と指摘される。

- ・ 無は不可能である
- ・ 世界が存在することに理由はなく、「世界はただ在る」

>無から宇宙の出現を記述する試みは推測の域にとどまっている部分が大きいにしても、科学の領域を拡張する刺激的な営みだ。いつの日か、このプログラムを完了することができたら、宇宙の存在と歴史が、根本的な自然法則で説明できることになる。つまり、物理法則から宇宙の存在が導き出されるということだ。そのとき、私たちは、なぜ何もないのではなく、何かがあるのかを理解するという目覚ましい目標を達成したことになる。なぜなら、このアプローチが正しければ、永遠に続く「無」(nothing) はありえないからだ。宇宙の創造が量子過程で記述できれば、一つの深い謎が残る。宇宙の創造が量子過程で記述できれば、一つの深い謎が残る。何が物理法則を決定したのか。

- ・ 人間原理
- ・ 弁証法的発展 (『宇宙創造の秘密』より)

【人生の目的、意味】

○ (Wikipedia でも指摘されている) 東洋思想とプラトン哲学の共通性まとめ

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9B%AE%E7%9A%84%E8%AB%96>

輪廻の輪からの解脱

(個人的主観による) 人生の目的とは

六道輪廻の循環 (全ては循環している)

⇒六道輪廻とは、植物、虫、魚、爬虫類、ほ乳類、そして人間と、各生物に生まれ変わる循環 (個人的解釈)

<https://sirabee.com/2016/10/09/170160/>

十二縁起の一番最初の因縁は無明 (無知)

つまり、集合精神は全知と推測され、それがアカシックレコード
経験や学びを深めることで、知を得て、涅槃の境地になる

なぜ苦痛は存在するのか? (なぜこの世はこういう設定なのか?)

- ・業や因果応報によるもの
- ・苦痛を1つ経験することで、業が1つ解消され、涅槃に近づく

魂の修行のために、一切皆苦の物理世界に生まれたと解釈

この世は一切皆苦 → <http://karapaia.com/archives/52252692.html>

生活を構成するもの (旧石器時代)

- ・衣・身体が冷えないように動物の皮を身にまとう
- ・食・狩りをしたり木の実などを採りまた漁をする
- ・住・洞穴や樹木の陰で雨風をしのぎ眠り、新たな獲物を求めて移動を繰り返す
- ・子供をつくり、産み、育てる
- ・老人が孫の子育てを手伝い若い世代に知恵を授け、若い世代が老人の世話をする
- ・世界を解釈し、その世界像のもと、上記のさまざまな活動を営み (食べ、住まい、子供を産み育て) 表象行為を行う。(もともと生きることと、世界解釈と一体化して生きることは不可分であった) 現代風に言えば、「信仰生活」「宗教行為」「年中行事」など

農耕の始まりが近代化の第一歩だった

その後、人類の中に農耕をする者が現れると、農耕人 (民族) たちは (その性質上) 土地を占有するようになり…

現代

- ・(食糧を直接自分で狩る、採る、漁する代わりに) 貨幣を得る - 貨幣を得られる仕事(労働)をする。家計を成り立たせる

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%9F%E6%B4%BB>

なぜ生命は誕生したのか? (なぜ原意識は生命体として生まれるのか?)

魂の修行のために生まれてきたのかもしれない

大昔に神々と共に天上界にいて、真実在(イデア)を觀照していたが、煩悩により地上界に墮ちてきて、肉体に寄生し、輪廻転生を繰り返すことになった(プラトン哲学を参考)

プラトン哲学の想起説

⇒(個人的解釈)縁起やこの世の習わしを想起して、涅槃になることと解釈

ゾロアスター教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の「最後の審判」

⇒(個人的解釈)東洋思想における「解脱」のための審判と解釈

YouTube 動画から

<https://www.youtube.com/watch?v=szYgtQXi2dw>

臨死体験は、アストラ体となってアストラル界に行くこと

もともとは全ての一部だった皆がいろいろな経験をするために、肉体に意識を入れて体験する

海の波のような存在

潜在意識が物事を作り出している

アストラル界は、潜在意識そのものの世界

思ったものが全て現実化する

(ゆえに、臨死体験では思ったことができる)

逆をいうと、ネガティブな感情も全て現実化する世界

ゆえに何回も人生を経験して自分を磨く

～まとめ～

生命は、(煩惱により地上界に墮ちてきた)魂の修行のために生まれてきたのかもしれない

天上界では、潜在意識そのものの世界なので、思ったことが全て現実化する世界である

ゆえに、ポジティブな感情、ネガティブな感情、煩惱も全て現実化する

そのため、魂の修行が必要である

生命の目的とは、種の繁栄であり、その繁栄の過程が絶対精神≡集合精神の自己展開

集合精神の自己展開とは、生命の進化であり、ミーム(文化的遺伝子)の進化

魂の修行の末に行きつく境地は、個人の精神 ≡ 集合精神、の涅槃、梵我一如の境地である

その境地に至るには、経験や学びを深めることが大切である

また、生きていく中で、苦痛を経験するごとに業が解消され、涅槃に近づく

その過程からも、「人生は修行である」と解釈できる

経験や学びの方向性は、(深層心理によって)自由に選択でき、最終的には直感を信じるべき

自分らしく生きることが大切である

そして、植物、虫、魚、爬虫類、ほ乳類、人間と、各全ての生物へ生まれ変わる循環を、六道輪廻(個人的解釈) → 人の脳も動物の脳もデザインに違いがあるだけで、基本的に全て同じ

そして、涅槃、梵我一如の境地により、輪廻転生の輪からの解脱が得られ、天上界に帰還できる

【探求情報まとめ】

● 「宇宙は解離性同一性障害（多重人格）で、我々はその人格の1つ」研究者が発表！ 宇宙意識と人間の関係が判明！

https://tocana.jp/2018/07/post_17484_entry.html

>しかし、構築的汎心論にも問題点がある。全てに意識があるといっても、我々一人一人の独立した個人的意識はどこから生じるというのだろうか？ ひとつのアイデアは、粒子は意識の欠片のようなものを持っており、それが十分に寄せ集まると自意識が生じるというものだ。しかし、これはあまりにも都合の良い話ではないか。喩えて言えば、バラバラになった車の部品ひとつひとつをランダムに組み合わせた結果、奇跡的にベンツになったというような話だ。この問題は構築的汎心論の「結合問題」と呼ばれている。

問題はこれだけではない。粒子が寄せ集まって十分大きく複雑になれば自意識が生じるとすれば、全ての粒子を自らのうちに含んでいる宇宙そのものが巨大なひとつの自意識ということになってしまう。だとすれば、そのひとつの巨大な自意識の中に個々の人間の自意識が生じるというのは決まりが悪い。これでは、宇宙の自意識と人間の自意識がオーバーラップしてしまうし、個々人の自意識が宇宙の自意識という統一された1つの自意識から生まれるならば、個人というものが実は存在しないことになってしまう。これを構築的汎心論の「再結合問題」という。

ここで、カストラップ博士は後者の「再結合問題」を解決するため、しばらくの間、形而上学から離れ、心理学の症例に目を転じる。カストラップ博士が注目するのは、「解離性同一性障害」である。

>ここで引用されているのは、2009年に出版された米・ヴァージニア大学の名誉教授ブルース・グレイソン氏らによる心理学研究書『Irreducible Mind（還元できない心）』に掲載されている症例だ。

ある患者の別人格「ポーシャンさん」は、その人格が表面に表れていない時にも休眠状態にあるわけではなく、活動状態にあるという。なんと、解離性同一障害の患者の諸人格は他の人格に介入する機会を常に狙っているというのだ。そして、そうした“競争”に勝ち残った人格が表層に浮上して来る。

意識の問題に戻ろう。先述したように、構築的汎心論では宇宙という自意識の中に個々の人間の自意識が芽生えるという「再結合問題」を解決することができない。そこで、カストラップ博士は、解離性同一障害の症例から、個々人の自意識を解離性同一性障害の患者が持つ“それぞれの人格”と捉え、宇宙の統一された自意識をそういった人格を包含す

る患者の心と捉える。そうすれば、先ほどの症例にもあったように、それぞれの人格が共存しつつ互いに独立することが可能となるだろう。この考え方をカストラップ博士は「観念論」と呼んでいる。

ただし、このアイデアにも乗り越えるべき多くの問題があることはカストラップ博士自身が認めているところだ。だが、従来の方法では解決できなかった意識の難問を解決する上で新たな視座を与えてくれることは間違いないだろう。今後の研究に期待したい。

⇒自己提唱理論と類似？

●宇宙線を食糧とするエイリアンの存在が濃厚に！ 放射線を食べて生きる最強生物が地球上で新発見される

https://tocana.jp/2016/10/post_11262_entry.html

>ことの発端は、とある微生物の発見だった。南アフリカにある鉱山の地下 2.8km で発見された「*Desulforudis audaxviator*」という細菌は、驚くべきことに放射線の恩恵を得て生きている可能性があるという。この細菌が見つかった鉱山の地下深くには、もちろん太陽の光は届かないし、炭素も酸素も存在しない。しかし、ウラン鉱石から発せられる放射線が岩を分解して、硫黄や水などの分子を作り出しているため、細菌はそれを吸収して糧とし、放射線からのダメージを修復するプロセスまで行っているという。

米ブルーマーブル宇宙科学研究所の研究者ディミトラ・アトリ氏は、火星のように大気や磁場の影響が少なく、宇宙線が星の表面にまで達しているような場所では、*Desulforudis audaxviator* のような微生物が生存できるかもしれないと考えた。そこでアトリ氏がコンピュータシミュレーションを行ったところ、実際に宇宙線が小さく安定して降り注いでいる環境では、微生物が生存し得るという結果が得られたのだった。アトリ氏の論文は、今月 5 日に学術誌「*Jornal of the Royal Society Interface*」に掲載された。

⇒パンスペルミア説と関係？

●魂の全遺伝情報ソウルゲノムを受け継いだ!? “誕生痕”の謎

<http://gakkenmu.jp/column/14717/>

>前世の記憶は時空を超えた「共鳴場」に経験情報として蓄積されている

⇒生まれ変わり事例（生まれ変わりの遺伝子を「ソウルゲノム」と提唱）

●時間がいっぱい 主観的な時間と客観的な時間 人間の時間と動物の時間より

<https://www.youtube.com/watch?v=2mTBZfxkR4s>

>コウモリであるとはどういうことか

コウモリやイルカにとって、空間とは音であり、時間であるということになります。私たちが音波探知機を使うときは、時間の情報を空間に変換して画面に表示しますが、コウモリやイルカはどのようなのでしょうか。やはり頭の中で時間を空間に変換しているのでしょうか？自然はそんな無駄なことはしないのではないのでしょうか？空間像に変換しないまま音を元に、障害物を避けたり、獲物を追いかけていたりしているのではないのでしょうか？まさにこのことを問うたのがアメリカの哲学者トマス・ネーゲルです。

コウモリは反響定位によって得た知覚をいったい「見える」ように感じているのか「聞える」ように感じているのか。どちらとも違うのか。全く何も感じず、機械のようにただ反射的に動いているのか。こういう問題は、コウモリの生態や神経系の構造を調査するといい、いわゆる科学的方法ではわかりません。それではどうやればわかるかと言うと、どうやってもわかりません。この問題は『クオリアと呼ばれる感覚的な実感はどのように生じるか』という哲学的、認識科学的、脳科学的大問題に繋がる。

⇒クオリアについての謎提起

●シェルドレイクの仮説

<https://www.youtube.com/watch?v=3W9wQ9fYhS4&t=18s>

>ハトがねぐらに帰る方法や動物に備わっているテレパシー能力、動物が地震や津波を予測する方法についての究明

⇒シェルドレイクの仮説の補足、量子生物学と関係あり

●夢と予知の関係より

<https://www.youtube.com/watch?v=0PF033tNHYA>

>ユングの理論をさらに飛躍させ、従来の心理学の範疇をはるかに越えたのがエドガー・ケイシーである。

実際、夢の中には、潜在意識の記憶だけでは、理解できないような内容も随分多いのも確かだ。

ケイシーによれば、睡眠とは、生の中絶期間、すなわち、臨死に近い状態であるというのである。つまり、人間は睡眠に入ると潜在意識が活動を開始し、超感覚が働くというものである。事実、ケイシーは、自己催眠によるトランス状態に入ると信じ難い能力を次々と発揮した。

⇒集合的無意識と超常現象との関連や発展

●動いているのに止まっている？人間には矛盾して見える生物の特徴

<https://www.youtube.com/watch?v=V-5L7MVUr-4>

>常に同じ状態に保つ仕組み恒常性、ところが生き物は成長し老化する

>福岡伸一氏の生命観

機械は原理的にはどの部分からも作ることができ、部品を抜き取ったり交換することも容易です。しかし、母親のお腹の中にいる胎児は、順を追って発生過程をたどらなければ正常に成長しません。人間の部品交換、つまり臓器移植の困難さは現在でも医学の重要課題です。機械はどこからでも作れる、つまり時間がない。しかし、生物には不可逆的な時間の流れがあり、その流れに沿って折りたたまれ、二度と解くことのできないものとして存在している。『生命とは動的平衡にある流れである』川の中にできる渦のようなイメージ。

>シュレーディンガーの生命観

ネグントロピー（負のエントロピー）を取り入れ体内のエントロピーの増大を相殺することで定常状態を保持している定常開放系

⇒「宇宙の弁証法的発展」と関係（動的平衡）、書籍『投影された宇宙』とも関係（川の渦の渦）

●自論：欲や煩惱があるから生きるのではないか説

説の発想に至った情報

定年退職後の精神状態は6ヶ月が限度！

<https://goyat.jp/what-i-learned/350-6-months-limit-in-mind.html>

そもそも、生存の目的のために欲や煩惱は備わった

宇宙、生命の存在できる場所を作りたい → 遺伝情報を絶やさず増やしたい → 生物を存在させ続けたい → 精神、物質世界で存在したい → なぜ？ → ここから先は宗教の領域

関連

なぜ同性愛は存在するのか。生物学の観点から見た同性愛者の存在意義。

<https://www.co-media.jp/article/13269>

>同性愛と同じように、進化論的に矛盾すると長らく考えられてきた生態を持つ生き物があります。アリやハチなどの社会性を持つ昆虫です。

アリやハチのコロニーには、働きアリや働きバチと呼ばれるグループがあります。驚くべき

ことに、これらのグループに属する個体は、ほとんどの場合自分の子孫を残すことはありません。これは「より多く子孫を残せるような性質を持つ遺伝子が生き残る」とする自然淘汰の法則と一見矛盾します。このため、アリなどの社会性昆虫の生態は、長い間進化論では説明できない例とされてきました。

そこに、「血縁選択説」というものが登場します。

ダーウィンの唱えた進化論は「進化は将来の世代に残る遺伝子数を最大化するような形で起こる」というものです。ここで見落としがちなのは、「遺伝子を残す」ことは、必ずしも「自分の子を残す」とこととイコールではないということです。

親から見て子供は遺伝子の半分を共有しているため、近縁度は 50%です。また、兄弟はやはり自分と遺伝子の 50%を共有しているので、近縁度は 50%です。つまり、自分が繁殖することはもちろん、血縁者の繁殖を助けることも、遺伝子を残す上で有効な手段ということになります。

アリの場合、女王アリと働きアリは親子関係にあります。自分が繁殖するよりも親を手伝うことによって血縁者を通してより多くの遺伝子を残すことができるのなら、社会的な生物はその方向に進化してゆくはずで

また、似たような説として「群選択説」というものも存在します。これは「血縁」から「群」や「種」に範囲が広がったもので、自分が滅私奉公することにより群や種の仲間がより多く子孫を残すことができるのなら、その群や種の存続につながるという説です。

>社会的な生態を持つ動物のオスは、単独で生きる生物のそれらに比べて「メス化」していると言われます。オスは、メスをめぐって争い、好戦的で社会にとって危険な存在であるため、社会的な動物のコミュニティでは「過度にオスらしいオス」は協調を乱す存在として性淘汰において排除される必要があります。このため社会的な動物であるヒトのオスは、他の個体と協調し、育児行動などに積極的に参加するなど、「メス化」するのです。実際に、チンパンジーの群れに同性愛の個体を入れたところ、群れの協調性が増したという研究報告もあります。

●【ノーベル賞候補】臓器提供者の記憶が移植者に伝染するのは事実だった？！

<https://togetter.com/li/920305>

ソース

単一の神経細胞による記憶を初めて発見—名大・森郁恵氏ら

<https://www.zaikei.co.jp/article/20160101/286196.html>

>名古屋大学の森郁恵教授・貝淵弘三教授らの共同研究チームは、線虫を用いた研究で、神経細胞の中に単一細胞として記憶を形成できる能力を持つものが存在することを初めて発見した。

⇒身体全体がホログラフィック？ 気場？ オーラ？ 脳ホログラフィー理論の証明？

●動物の人格（獣格？）ってどういうこと？

http://blog.livedoor.jp/s_akito-foala/archives/9665563.html

>多重人格の人の中には、動物がいることがあります

うちにも2匹・・・黒い大きな犬とキツネと猫の中間みたいなキツネコ（仮）がいます

実はあまり珍しいことじゃないようで、多重人格の友達のところにも1～2匹ほど猫（または猫っぽい動物）がいたりします

>そこから「獣格が表に出てくるとどうなるの？」と考える人が多いみたいですね

簡単に言えば、動物そのままの動きをします

⇒動物から人間の生まれ変わり、人間から動物の生まれ変わりと関係？

●【衝撃】“脳だけで生きる豚”の実験成功

https://tocana.jp/2018/04/post_16755_entry.html

>今月25日付の「MIT Technology Review」によると、断頭した豚の脳を最大36時間生存させたという驚くべき発表を行ったのは、米国イェール大学の神経科学者ネナド・セスタン（Nenad Sestan）氏である。今年3月28日に米国立衛生研究所で行われた脳科学の倫理的問題に関する会議の場でのことであった。

セスタン氏のチームはと畜場から得た100～200匹の豚の脳に、適温の人工血液を循環させる装置「BrainEx」をつないだ。脳が装置につながれたのは断頭から4時間後のことだったが、驚くべきことに、装置につながれた脳の何十億もの細胞は健康で正常な活動を行っていたというのである。

さらに、セスタン氏はBrainExにつながれた脳が意識を回復するのについても調べている。彼らは脳波計や電極などを使って意識を示す兆候を探ったのだが、思考や感覚が戻ったという証拠は得られなかったそうだ。ただ、実験中には意識の存在を示すサインが検出されたこともあり、研究室中が驚きと興奮に包まれたこともあったという。しかし残念

ながら、そのサインは後に機器のノイズだったと判明している。

関連

心は脳だけでなく身体全体から作られる—神経学者ダマシオの自己意識の研究を読み解く

<https://susumu-akashi.com/2018/08/damasio/>

>ダマシオの提唱した情動の理論、「ソマティック・マーカー仮説」は、わたしたちの「心」は、どれほど神秘的に見えても、「身体」に源を発する川の流れの下流である、ということを物語っています。

確かに心が持つ創造性は大海原のような広がりと深みを持っていますが、その源をさかのぼっていけば、感情や情動からなる川のようなひとつながりの流れ、そしてその源たる身体に行き着きます。

>>

□意識について

意識は身体の内環境を維持するために備わる機能である。

わたしたちの、もっとも基本的な存在の感覚や身体所有感、脳の最下層の脳幹部や体性感覚皮質が生み出す、無意識の「原自己」によって生じている。

その次に、今ここを認識する「中核意識」が作られ、幼児や動物は今この瞬間だけの自分をスナップショットのようにして認識できるようになる。中核意識があれば、非言語的な身体の記憶、つまり手続き記憶を学習できる。

さらに、成長した人間は「拡張意識」を身につけ、今この瞬間だけでなく、過去や未来を認識できるようになる。前後の文脈を言語的に記憶するこの能力によって、わたしたちは、過去の自分を認識したり、未来の自分を想像したりできるようになり、ビデオのようにつながった自己のアイデンティティを形成できる。

わたしたちは、拡張意識のすばらしい創造力を人間性の源だと思っているが、神経科学の症例からすれば、原自己や中核意識がなくなれば、それは崩壊する。よってどれほど素晴らしい精神活動も、身体なしには成り立たない。

□情動について

わたしたちはまず無意識のうちに「感覚」を脳で処理する。これは意識のない原自己のレベルでも生じる。

次いで、その感覚は、条件付け学習によって、「情動」という身体的な反応(手続き記憶)を引き起こす。トラウマ反応もこれにあたる。情動は少なくとも中核意識がなければ起こらない。

身体的な情動は、心の中に「感情」を生み出し動機づけを与える。

そして最後に、情動や感情を認識し、内省することではじめて「理性」が生まれる。

感覚→情動→感情→理性はひとつながりの川の流れのようになっていて、情動や感情がなければ、うまく理性は働かない。

トラウマは情動のレベルで起こっている身体的反応なので、感情や理性のレベルに注目した治療ではなく、より川の上流に近い感覚や情動のレベルに介入する治療が必要になる。

⇒脳オルガノイドは実現不可能である可能性、心は脳だけでなく身体全体を通じて発現している可能性、身体全体がホログラフィック (『投影された宇宙』) と関係

●DNA コードは意思を持って記述されたプログラムだった!? 専門家「偶発的に書き上がるものではない」

https://tocana.jp/2017/06/post_13378_entry.html

>もしも DNA が、記述されたコードの保管に適しているならば、DNA 自体が何らかのメモリの役割をしているのではないだろうか? ということである。オンラインジャーナルの「Collective Evolution」に、この疑問に合わせて一つの説を唱えるトム・バンゼルのレポートがされている。

バンゼルの説によれば、DNA は「有機的プログラミング言語」であるということである。もちろん、コンピュータのプログラミング言語の方が、DNA よりも何億年も後に開発されたものであるのだが、その構成は非常によく似ているとのことである。

仮に、果物のリンゴを考えてみよう。リンゴはアプリに置き換えて考えることができる。つまり、リンゴの DNA に記述されているコードがプログラムであり、太陽があたるとアプリが起動し、実行され、リンゴの実になるという実行ファイルであるということなのである。

>仮に DNA に記述されているコードが、グーグルやマイクロソフト、アップルなどがつく

りあげているコンピュータプログラムと同様に捉えることができるとすると、いったいそれは、誰によって記述されたものなのであろうかという疑問が浮上してくる。

バンゼル氏によれば、DNA は決して進化論的な偶然の重なり合いから取捨選択されたものでも、無秩序に並べられた化学的コードでもなく、意思のチカラが働いているというのである。

彼はこの力の「マインド」と称して「私が持っている心とは別の、はるかに強力な意思や精神の存在が否定することのできない現実である」としている。Windows の OS を記述したり、Photoshop のプログラムを構成するために、プログラマやコーダーが、知力と技術と時間をかけてソフトウェアを開発にしたように、「マインド」の力が働かなければ、DNA というソフトウェアは、偶発的に書きあがるものではないということである。

はたして、それが神という存在なのであろうか。それとも、高度に発達した地球外生命体や異次元生命体によるものなのだろうか。もしくは、生命がもともと持っているエネルギーがそういう存在にあたるのであろうか。バンゼル氏の説における「マインド」の本質はピンポイントで「何であるか」を解き明かしてはいないが、別の視点から DNA を考えてみるヒントになるのではないだろうか。

【DNA】我々は「宇宙人の“究極の伝言”を保管する生き物」だった！ 著名科学者ら“13年間の研究”に結論

https://tocana.jp/2017/03/post_12605_entry.html

>驚愕の研究を発表したのは、カザフスタンの 2 人の科学者、フェセンコフ天文物理学研究所の Maxim A. Makukov 教授と、カザフ国立大学の Vladimir Shcherbak 教授だ。2 人は過去 13 年間にわたり人間のゲノム研究に取り組んできた結果、常識を覆す結論に行き着いたという。なんと、人類の遺伝子中にエイリアンからのメッセージが書き込まれていることが判明したというのだ！

メッセージといっても英語や日本語で書かれた手紙のようなものではなく、数学的なパターンと象形文字のようなものが DNA 配列に発見されたとのことだ。教授らによると、DNA 中の 98%を占める非コード配列のうち、実に 97%がエイリアンの遺伝子コードであり、これらのメッセージは彼らが地球に再訪するための目印であるという。

「人類よりも遥かに進歩した地球外文明が生命を生み出し、地球を含めたあらゆる惑星に植え付けている、というのが我々の仮説です」(Makukov 教授)

「DNA に埋め込まれたエイリアンコードは天文学的時間を通して不変です。実際、これま

で知られているどんな構成物よりも耐久性があります」(同)

そのため、数十億年前に地球で突如起こった生命の進化は、我々がまだ気付いていない高次の出来事の現れである可能性が高いとも。というのも、DNAの数学的なコード配列だけでは生命の進化を十分に説明することが出来ないため、非コード配列にエイリアン由来のプログラムが存在している可能性があるということだ。

⇒一連のシミュレーション仮説、細胞記憶とも関連

●イエスは、輪廻転生を肯定していた???

<https://ameblo.jp/mikan10000ko/entry-11414845731.html>

>初期のキリスト教会には輪廻思想があった。という事は、イエスは、輪廻を肯定していた?

・かつてのキリスト教においては輪廻転生が語られていました。

「死海文書」の他にも「ナグ・ハマディ文書」「トマスによる福音書」「マグダラのマリアによる福音書」「ユダによる福音書」などが明らかにされ、そこに輪廻転生に関する記述が載っていることが明かされるようになってきました。

・イエスの時代の「キリスト教徒」や「ユダヤ教徒」は、輪廻転生は当たり前の事として信じられていた

・ヨハネの福音書・第三章。イエスがニコデモという人物と会話している場面。

「人はもう一度生まれ変わらなければ天の王国を見られない」

次にマタイの福音書第5章

「人は完全にならなければ、天の王国に入れない」

完全にならなければ天国に行けないなら、実際に天国にいける人は釈迦やイエスのようなごくごく稀な人物のみということになります。この二つの文章を素直に解釈すれば、「何度生まれ変わりを重ねて、完全になったときに天の王国に入れる」と読めます

<http://d.hatena.ne.jp/harakouzou/20150604>

>ギリシャ哲学を勉強していると、ギリシ哲学は輪廻転生の考え方だとかいてあり驚いた。何だ、ギリシャ哲学は仏教とつながっていたのか、と短絡的におもっていたら大間違いであった。ギリシャの哲学者ヘラクレイトスの万物流転の考え方も私たちの考える仏教的なものとは異なっている。ギリシャ哲学はその後、キリスト教神学に取り入れられ、輪廻転生とは死んでも最後の審判にまで到達しないことを意味しているようだ。つまり死んだあとに迎える最後の審判までの間、その人の魂はダンテの神曲の世界に行くのではなく、魂は様々な生きもの間を転生するという意味のようである

⇒「最後の審判」とは「解脱」のことなのではないか説

【脳科学】

“8年間右脳だけで生きた” ハーバード大博士が激白「我々はエネルギーで繋がっていた」
「ニルヴァーナを見た」

https://tocana.jp/2017/09/post_14582_entry.html

⇒右脳は集合的無意識のアクセス機？

「我々の意識や魂は、量子情報として脳に保管されている」説は正しいのか？ 「量子脳理論」 「Posner 分子」 「イオンチャネル」 が解き明かす人間存在に迫る！

https://tocana.jp/2017/11/post_15074_entry_2.html

⇒量子脳理論

「知覚・感情・脳」を共有、でも人格は別 — 美少女結合双生児の不思議な関係

https://tocana.jp/2015/08/post_7140_entry.html

⇒脳の不思議

「半分以下の脳」しかない男、なぜ不自由なく生きられるのか？ 人体の奇跡!!

https://tocana.jp/2015/08/post_7122_entry.html

⇒脳の不思議

【ガチ】意識の発生源が特定される！ 脳にグルッと絡み付く「いばらの王冠」とは？（最新研究）

https://tocana.jp/2017/03/post_12512_entry.html

関連ニュース：脳の前障に電気刺激を与えると意識を失うことが発見される

https://www.excite.co.jp/news/article/Slashdot_14_07_08_0859246/

⇒非意識的ホムンクルスの場所？

【ガチ】我々の脳は直接“見えない光”とつながっていた！ 科学者「脳内で毎秒10億個の謎の光が発生」オーラやクンダリーニーの覚醒に関係か！

https://tocana.jp/2017/11/post_15079_entry.html

⇒量子脳理論と関係

【ガチ】我々は今を生きていない、80 ミリ秒前を生きることが判明！ 実験「フラッシュラグ効果」が証明、過去を改変する認知作用とは？

https://tocana.jp/2017/09/post_14480_entry.html

⇒我々は脳が作り出した幻想に生きている？

【ガチ】人間の「第六感」を著名科学者が発見！ 脳内の「磁覚＝シックスセンス」の存在が実験で証明される！

https://tocana.jp/2017/12/post_15299_entry.html

⇒量子生物学と関係

【ガチ】脳は 11 次元構造を持つ多元宇宙だった！ "高次元ニューロン" の動きに科学者「誰も想像していなかった世界」

https://tocana.jp/2017/06/post_13498_entry.html

⇒脳は小宇宙？

【ガチ科学】人間の意識は宇宙法則とリンクしていたことが判明「意識はエントロピーの副産物でしかない」

https://tocana.jp/2017/01/post_12093_entry.html

⇒脳は小宇宙？

【ガチ科学】脳とコンピュータは“働き方から死に方”まで同じだった！ 生命と機械の定義が覆る!?

https://tocana.jp/2017/02/post_12327_entry.html

⇒脳は量子コンピュータ？

【ガチ研究】死人の脳が「眠っている人の脳」と同じ活動をしていることが判明！ 死はノンレム睡眠状態だった！

https://tocana.jp/2017/07/post_13756_entry.html

⇒死はプロセス、コンピュータのシャットダウンのようなもの？

【衝撃】 ついに「記憶の移植」に成功！ UCLA がアメリシで実験、人間に適用される日も近い！

https://tocana.jp/2018/05/post_16898_entry.html

⇒DNA 記憶説、臓器移植の記憶転移と関係

【世界初】 研究室で培養された「ミニブレイン」から人間の脳波が確認される！ 現在は未熟児レベルだが、今後成長か!?

https://tocana.jp/2018/11/post_18811_entry.html

⇒脳オルガノイドに意識は宿るのか？ >通常脳ではニューロンが同期してリズムパターンを持つ脳波を生み出すが、このミニ・ブレインから発せられたのは不規則なものであった

今後の展開に注目

【脳の不思議】 10 の人格を持つ盲目女性、一部の人格において視力が回復！

https://tocana.jp/2015/12/post_8278_entry.html

⇒脳の不思議

【倫理】 脳を交換したらどっちが「私」？ 「頭部移植」を巡る哲学的思考実験と「魂」の実在性

https://tocana.jp/2016/12/post_11681_entry.html

⇒反実在論の証明？

【朗報】 赤ちゃんの時の記憶は消えていなかった事が判明！ 誰でも脳にレーザー刺激で蘇る… 常識崩壊！（最新研究）

https://tocana.jp/2018/07/post_17545_entry.html

⇒幼児の頃の記憶も深層に保存されている

失われた記憶を取り戻すことができる？ 「長期記憶の保存先はシナプスではなかった」＝

米研究

https://tocana.jp/2015/01/post_5490_entry.html

⇒細胞記憶説、DNA 記憶説

世界初、LSD が「高次の意識状態」を生み出していることが脳科学で判明！キマッている時は無我の境地か!?

https://tocana.jp/2017/04/post_13019_entry.html

⇒幻覚剤で「高次の意識状態」

生きた微生物がハードディスクの代わりになる！ たった1グラムのDNAに10億テラバイトのデータ保存が可能!!

https://tocana.jp/2016/07/post_10205_entry.html

⇒DNA 記憶説

前世、移植、合成…記憶に関する 5 つの超不思議な研究結果とは？【理研・マウスの記憶復元】

https://tocana.jp/2016/03/post_9203_entry.html

⇒記憶は遺伝する？ 記憶は“時空を超える”？ 記憶は消えない

無脳症の赤ちゃん、奇跡的に1歳を迎える!! 「パパ、ママ」と呼ぶことも！

https://tocana.jp/2015/10/post_7490_entry.html

⇒脳の不思議

人は意識的に自分の行動をコントロールしていると錯覚しているが、全て無意識下で決定されてる？（米研究）

<http://karapaia.com/archives/52201267.html>

直感、第六感は本当に存在し、物事を決断するときに一役かっている。直感を測定することに成功（オーストラリア研究）

<http://karapaia.com/archives/52219090.html>

⇒無意識による意思決定

脳は記憶を保持しない。なぜならそれ自体が記憶であるから（米研究）

<http://karapaia.com/archives/52243031.html>

⇒脳と記憶の関係

冷凍保存された脳は目覚めても記憶を保持できていることが判明（米研究）

<http://karapaia.com/archives/52193585.html>

⇒記憶は消えない

「分離脳」だから分かった感覚のつながりとは

<https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/web/17/020800002/021400004/?P=4>

⇒脳梁がなくても、左右の脳は皮質下では繋がっている

【スピリチュアル】

「この世に個体は存在しない、すべては真空エネルギー」科学者断言！ 宇宙渦理論が「エーテルこそが真理」と証明！

https://tocana.jp/2018/11/post_18814_entry.html

⇒エーテル、アカシックレコード？

「意識は物質や確率に影響を与える」プリンストン大学実験で判明していた！ 科学で解明できない集合意識の“本当の作用”とは？

https://tocana.jp/2018/07/post_17576_entry.html

⇒集合的無意識の証明？

湯川秀樹の研究を引き継いだ異能の物理学者・保江邦夫に取材！ 超常現象や奇跡はなぜ起きる？

https://tocana.jp/2015/12/post_8183_entry.html

“魂の構造が説明できる”素領域理論とは？ 物理学者・保江邦夫教授に取材！

https://tocana.jp/2015/12/post_8229_entry.html

⇒量子脳理論～集合的無意識～『投影された宇宙』等に通ずる

【ガチ】「石や電子など万物に意識が宿っている、これは真実」哲学者がパンサイキズムを提唱！ 物質である「脳」から非物質の「意識」が生まれる謎が解決！

https://tocana.jp/2017/11/post_15040_entry.html

⇒観念論

【衝撃】3人の僧侶が祈った水が植物の成長をスーパー促進！ ついに波動の实在が大学研究で証明される＝台湾

https://tocana.jp/2018/10/post_18407_entry.html

⇒意識が物質に与える影響、観念論？

【衝撃】意識が物質や現実を変えることを証明した4つの研究と論文！ 未来は“量子論と超能力”に託された！

https://tocana.jp/2017/10/post_14667_entry.html

⇒観念論

【衝撃】ドラッグ使用時の方が「正気」であったことが判明！ 哲学者「通常こそ幻覚。ドラッグで真理に至る」

https://tocana.jp/2017/08/post_14166_entry.html

⇒我々の見ている世界は“制御された幻覚”

【衝撃】我々の体の周りに「目に見えない雲」があると科学的に新判明！ まるでオーラ「誰もが個別の雲を出している」

https://tocana.jp/2018/09/post_18237_entry.html

⇒オーラと関係？

【量子論】「シュレーディンガーの猫」、箱を開けなければ不老不死だった！ 「量子ゼノ効果」の謎すぎる実験結果が証明！

https://tocana.jp/2017/06/post_13599_entry.html

⇒あの世は、生死の重ね合わせ状態？

死後、人間の意識は宇宙に大放出されている!? 最新の量子力学が魂・臨死体験の謎を解き明かす!

https://tocana.jp/2016/07/post_10215_entry.html

⇒魂の存在肯定派 — ペンローズ、ハメロフ、ホフスタッター (精神のフィードバックループ)

人間の意識は「脳内ブラックホール」を通じて異次元に存在している!? 大学教授「意識＝波動であり、脳＝粒子」

https://tocana.jp/2018/06/post_17196_entry.html

⇒観念論 (「意識＝波動であり、脳＝粒子」)

【生物】

「暗黒 DNA」の存在が進化の定義を変える可能性が示唆される (英研究)

<http://karapaia.com/archives/52245315.html>

⇒DNA の謎解明

【科学】イヌやネコは人間には見えない「波長」が見えていた! 何もない所を見つめる謎が解明＝ロンドン大学研究

https://tocana.jp/2017/12/post_15449_entry.html

⇒意識のオーバーフローと関係

【革命的】死後も活動するゾンビ遺伝子が人体で確認される! “死の定義” が激変する可能性も?

https://tocana.jp/2018/02/post_15999_entry.html

⇒死のシャットダウンの過程?

【衝撃】植物も“痛み”を感じている可能性が浮上! 植物を殺して食べる行為は残酷か…最新研究から考察!

https://tocana.jp/2018/09/post_18179_entry.html

⇒植物の神経伝達物質？

魚は犬猫より頭が良い!? 熱帯魚が鏡を使った自己認知テストに合格、科学界に衝撃広がる
(最新研究)

https://tocana.jp/2018/09/post_18071_entry.html

⇒魚の意識

世界初のバーチャルプレデター「サイバースラッグ」爆誕！ 自己を認識、空腹を感じ食欲
… 次はサイバー人間か!?

https://tocana.jp/2018/10/post_18362_entry.html

⇒サイバー哲学的ゾンビ？

シュレーディンガーの猫ならぬシュレーディンガーの細菌が量子生物学の重要な一歩となる
かもしれない (英研究)

<http://karapaia.com/archives/52267365.html>

⇒量子生物学

同じようで同じじゃない。ゴキブリにも個性があることが明らかに (ベルギー研究)

<http://karapaia.com/archives/52185086.html>

⇒ゴキブリにも意識はある

【宇宙】

【ガチ】 ついに「4次元空間の存在」が2つの実験で確認される！ 我々の周囲に“異次元空間”が広がっていることが判明、革命的ブレークスルー到来！

https://tocana.jp/2018/01/post_15701_entry.html

⇒高次元空間の存在証明？

【重要】 権威ある学術誌で発表「地球の生命は地球外からやって来た、しかも…」 パンスペルミア説ほぼ確定、衝撃の“宇宙生命拡散システム” 発見

https://tocana.jp/2017/11/post_15180_entry.html

⇒パンスペルミア説

【量子論】時間は過去にも向かって流れていたことが判明！ 未来が現在に影響を与える「逆因果」とは!?

https://tocana.jp/2018/06/post_17271_entry.html

⇒我々は一瞬過去の世界を生きている？ 脳が見せた幻覚の世界？ 無意識による意思決定？

ブラックホールの幽霊「ホーキング・ポイント」が発見！ 宇宙は何度も生まれ変わる「共形サイクリック宇宙論」証明へ！（最新研究）

https://tocana.jp/2018/09/post_18079_entry.html

⇒宇宙は何度も生まれ変わる

宇宙の歴史は全部嘘、「ボルツマン脳」が作り出した虚構！ ビッグバンも完全妄想、宇宙の起源は●●だった！

https://tocana.jp/2018/10/post_18511_entry.html

⇒世界の起源は宇宙ではなく、神の頭脳？

科学で解明できない「未知の繋がり」が発見される！ 鳩の巣原理を覆した量子の性質とは？

https://tocana.jp/2016/01/post_8666_entry.html

⇒量子の非局所性、ホログラム説の証明？

時間は不連続のパラパラ漫画だった!?! 意外と長い「最小時間」とタイムトラベルの謎とは？

https://tocana.jp/2016/03/post_9102_entry.html

⇒ループ量子重力理論と関係

宇宙の二領域をつなぐワームホールが実験室で作られていた（スペイン）

<http://karapaia.com/archives/52255319.html>

⇒ワームホールの存在証明？

【臨死】

【ガチ】人が死んだ後に生きる謎の10分間があった！ 研究者「説明不可能な事態」

https://tocana.jp/2017/03/post_12572_entry.html

⇒死はスイッチを押せばすぐに消える蛍光灯というよりも、時間をかけてシャットダウンするコンピュータに近い

【ガチ】人は死の瞬間に“自分が死んだ事実”を認識することが研究で判明！ 「医者死亡宣告も聞いた」遺体には意識が宿り続けている（米研究）

https://tocana.jp/2017/10/post_14846_entry.html

⇒臨死体験

脳が活動停止しても人は蘇生できる!? 死ぬ前に人は2度「暗闇の脳波」を出すことも判明（最新研究）

https://tocana.jp/2018/03/post_16185_entry.html

⇒死はコンピュータのシャットダウンに近い

【宗教】

なぜ人は、歌い、踊り、演じるのか 「芸能」の起源について考える

<http://www.jinken.ne.jp/be/meet/okiura/okiura2.html>

⇒神や精霊との交流が「芸能」の始まり

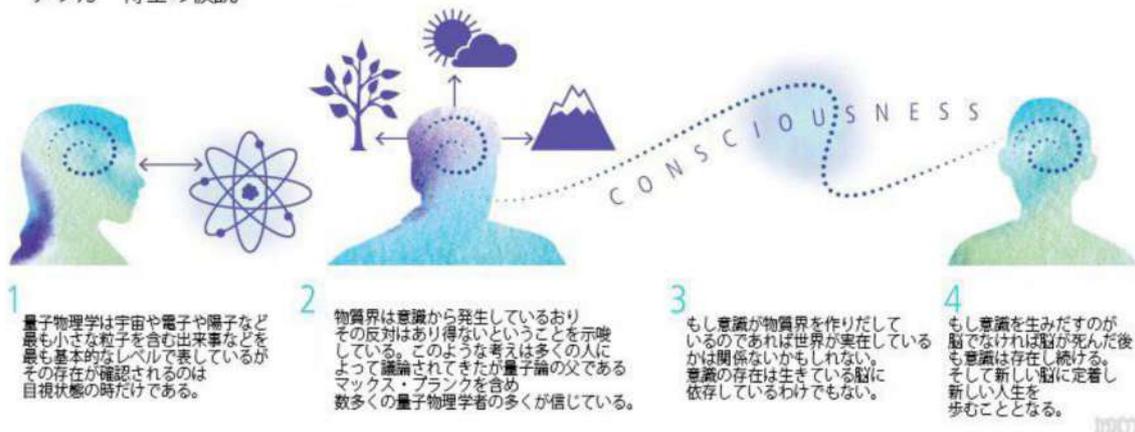
【前世】

「生まれ変わり」は本当にあるのか？前世の記憶を持つ6人の子供たちのケーススタディ

<http://karapaia.com/archives/52219990.html>

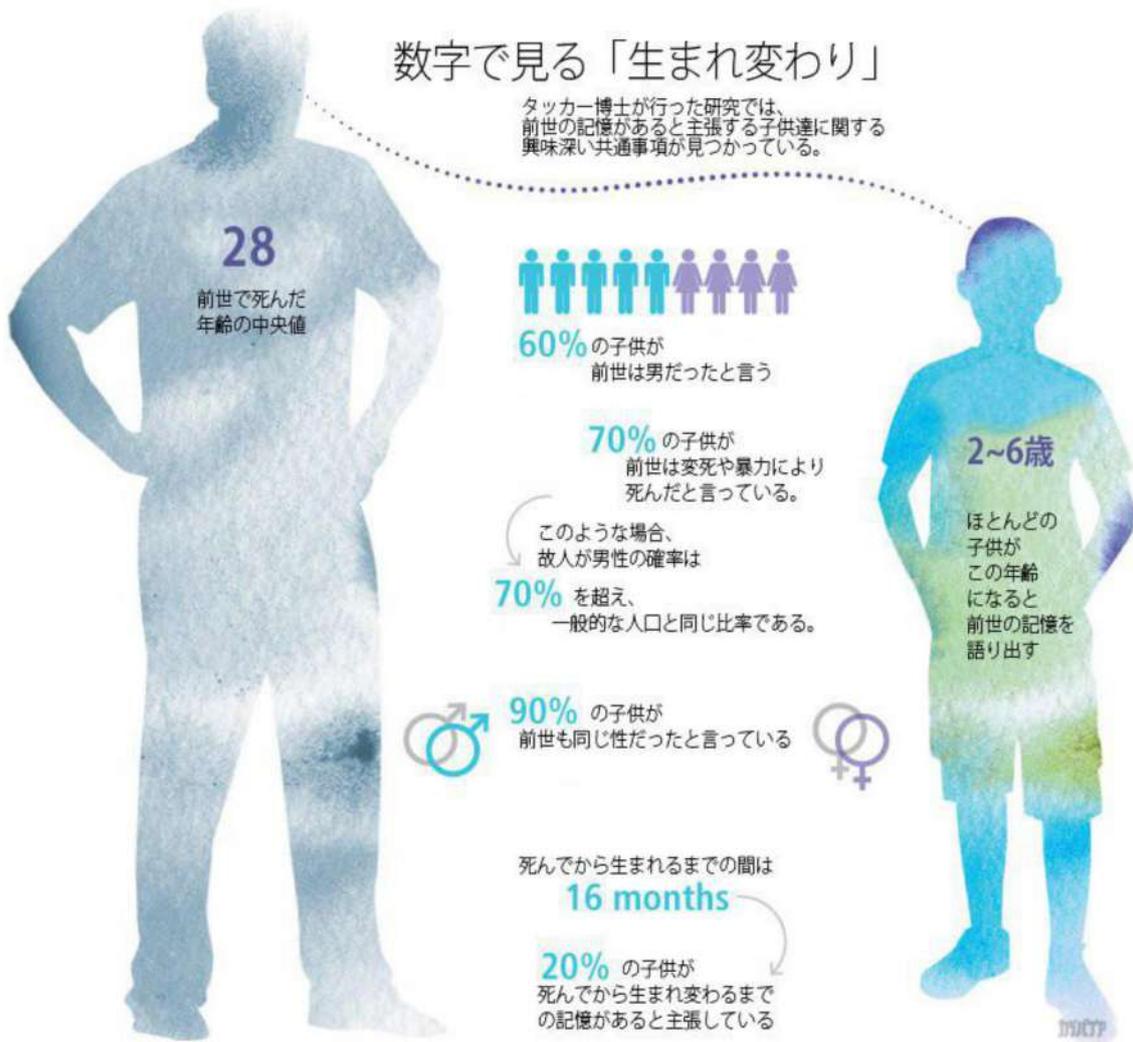
ジム・タッカー博士の生まれ変わりに関する仮説

タッカー博士の仮説



数字で見る「生まれ変わり」

タッカー博士が行った研究では、前世の記憶があると主張する子供達に関する興味深い共通事項が見つかった。



2 人の臨死体験者が「死後の世界」に行く途中を暴露！ 前世の記憶も取り戻し、生還した場合と死んだ場合の“結果の違い”も確認！

https://tocana.jp/2018/05/post_16872_entry.html

>女性「あなたはいつか、悲しみの中で私の顔を見るでしょう」と言い、不思議なビジョンを見せた。その中でエブリンさんはずっと歳を取っていて、瓦礫だらけの混沌とした場所で、ショック状態の人々の中にいたという。それが何を意味しているのかエブリンさんには分からなかったが、愉快なものではなかった。

>そしてテレサさんは前世の記憶を取り戻したという。それによれば母親と姉妹とは前世でも近い関係にあった。また、彼女は母親の未来をも見た。それは自分が死んだ場合と生還した場合の2パターンあったという。

さらに、テレサさんは自分の未来も見たという。これから彼女が経験する良いことも悪いことも、全てに理由があると示されたそうだ。与えられたビジョンは贈り物のように大切に感じられ、当時まだ3歳という幼さだったが、彼女は大人と同じようにしっかり受け止められたそうだ。

⇒この世は ADV の選択のようなもの？ 変えられない宿命と、変えられる運命の存在？ 宿命は“業”によるもの？

3歳少年「前世はヘビ」 体に証拠も — 生まれ変わり現象のレアケース=タイ

https://tocana.jp/2015/08/post_7138_entry.html

この件は当事、米・バージニア大学精神科の主任教授であったイアン・スティーブソン博士らにより調査が行われている。博士は「生まれ変わり」の超常現象の第一人者で、著書『前世を記憶する子どもたち』により世界中から反響を得た。

そして研究を引き継いだ児童精神科医のジム・B・タッカー博士は現在こう語っている。「一般的に生まれ変わりについて認めたり信じたりするには抵抗があると思います。人から人への転生する場合ですら受け入れるのは難しいですし、ましてやこのように動物から人へのケースはあり得ないと思われるでしょう」とコメントしつつも他に、チンパンジーの生まれ変わりであるという米少年の例を挙げ、「ですが、スティーブソン博士の研究事例の中には少数ながらこういった案件もあるのも事実なのです」と断言している。

⇒動物から人間、人間から動物にも生まれ変わる つまり、全生物に生まれ変わる可能性がある

東京大学駒場キャンパス授業 2 時間目 「意識」

<https://www.youtube.com/watch?v=AKcv2gqbQxk>

- ・ 個人のアイデンティティは意識の連続性により支えられる
- ・ 自己は束でできている
- ・ コウモリであるとはどういうことか
- ・ 感覚的クオリア、思考的クオリア
- ・ 認識のプロセスとは、感覚的クオリアと思考的クオリアがマッチングされるプロセス
- 複数の物理的時間が 1 つの心的時間の中に圧縮される
- この時の同時性も、感覚的同時性と思考的同時性の 2 つのプロセスが共存している

～意識の連続性～

- ・ 睡眠により意識の流れが途絶えた時に、前後にどのようにして自分というのが連続するのか？
- (テセウスの船)
- ・ 今ここの意識状態は今ここの脳状態から生まれるが、そこに何らかの時間の流れの属性に伴う痕跡のようなものの形で残っていると考えると我々の意識の連続性は担保できない

～自由意志～

- ・ 量子力学の非決定性が自由意志と関係する？
- ・ 自由意志を生み出すことが、意識の客観的に見た適応性から見た大きな意味かもしれない
- ・ 決定論的な因果性の中に生きてるにも関わらず自由意志を持つことができるということ
- をどのように定式化するか？
- ・ 自由意志を成り立たせている条件とは？

～オーバーフロー～

- ・ 我々の意識は、圧倒的な感覚情報のオーバーフローの下にある
- ・ オーバーフロー状態があるということは、単細胞時代から複雑な脳まで変わらない
- ・ 我々は、視覚世界を概略性表現によって把握するしかない
- (概略表現とオーバーフローの間の関係というのがおもしろい問題になる)

□私的まとめ

- ・ 私たち人間の細胞というのは、耐えず新しく入れ替わっている。常に部品の解体と再構築が繰り返されてるような。(テセウスの船で検索) にも関わらずなぜ我々の人格は同一性を保ってられるのか？
- ・ 我々の認知というのは、五感を通して複数の異なる物理的時間によって入ってきた情報

を脳内で集めて、それを1つの心的時間に統合し、再構築し、時間的矛盾を意識から取り除いた上で認知する。つまり、「人間が認識しているのは0.5秒前の世界」

・我々は、視覚世界を概略性表現によって把握している。(我々が見ている世界は、我々の脳が作り上げた世界であり、我々が見ている世界 が世界の真の姿であるとは限らない)

脳とクオリア

<http://www.qualia-manifesto.com/kenmogi/qualia-summary.html>

～認識におけるマッハの原理～

・認識を構成する要素は、ある単一のニューロンの発火ではなく、お互いに相互作用で結びついたニューロンの発火のクラスターである

・認識を構成する要素は、必然的に非局所的な意味を持つことになる。何故ならば、脳の空間的に離れたニューロンどうしが相互作用によって結びつくことによって、初めて認識が成立するからだ。

・認識の要素が脳の中の複数の部位にまたがるニューロンの発火のクラスターとして構成されるということは、視覚におけるいくつかの問題の解決へのヒントを与える。そのうちの 하나가、「結び付け問題」だ。形 (バラ)、動き (右に動く)、色 (赤)、テクスチャ (ピロードのような) といった異なる視覚特徴が、それぞれ空間的に離れた脳の領野で表現されているにも関わらず、どうして私たちは統合された視覚像 (右に動くピロードのような赤いバラ) として世界を認識できるのかという問題である。

～因果性とツイスター～

相互作用同時性は、私たちのニューロンの発火から、どのようにして私たちの心の中の時間や空間の秩序が生まれてくるのかというより一般的な問題の一部である。ここで指導的な原理となるのが、因果性だ。つまり、私たちの認識の時間的、空間的な構造は、ニューロンのネットワークの時間的な発展を因果的にどのように記述するかという観点から導かれてくるのである。

このようなアプローチにとって、ヒントになると思われるのがペンローズの「ツイスター」の概念である。ペンローズのアプローチでは、物理的時空に対して、「ツイスター空間」というものを考える。光の伝播する軌跡は、物理的時空の中では直線となるが、ツイスター空間の中では、一つの点となる。光の軌跡は、すなわち相互作用の伝搬する軌跡に他ならないから、ツイスター空間は、相互作用によって結ばれた時空の点の集合を、ひとまとめにして点として表した空間だと考えることができる。ツイスター空間は、ある意味では物理的時空よりも、自然法則にとって本質的な空間である。ペンローズは、「私たちは、ツイスター空間を、その中で物理学が記述されるべき空間とみなさなければならない」と言っている。

もちろん、ニューロンのネットワークにツイスターの考え方をそのまま持ち込むわけにはいかない。だが、ツイスターが考え方の基本としている、個体よりも個体の間の因果関係を基本的な要素とするという考え方は、ちょうど、相互作用で結ばれたニューロンの発火のクラスターが、認識の要素として一つの単位として扱われることに対応している。私たちの認識は、それを支えるニューロンの発火が、時間的にどのように発展していくかという、ダイナミクスによって決められている。従って、相互作用で結ばれたニューロンの発火のクラスターは、認識の要素であるとともに、ニューロンのネットワークのダイナミクスを考える際の単位になっていると考えられる。このようなダイナミクスの記述には、ツイスターに類似の数学的な枠組みが必要となる。

興味深いのは、物理的時空に対してツイスター空間が考えられるように、ニューロンのネットワークのダイナミクスを記述するのに適した、相互作用を基本とする空間が考えられ、これが私たちの認識の時空となっているという可能性だ。だとすると、私たちの「心」は、ツイスター空間に対応する、ニューロンのネットワークのダイナミクスを記述する空間で生ずる表象から構成されていることになる。もちろん、現時点ではこれは憶測に過ぎない。

～新しい情報の概念～

・私たちは、自分の外の事象を認識している場合と、単にそれをイメージしているに過ぎない場合を区別することができる。また、現在まさに目の前にあるものを認識している場合と、過去に見たものを思い出している場合を区別できる。重要なことは、このような区別は、それぞれの場合に私たちの心の中に浮かぶ表象のクオリアの違いとして現れるということだ。例えば、現在、外にあるものを認識している場合には、そこには非常に鮮烈な、生々しいクオリアが伴う。それに比べて、過去に見たものを思い出している時のクオリアは、薄ぼけた、抽象的なものだ。私たちは、このような区別を当然のものと思ってしまうがちである。だが、これらの表象は、元をただせばニューロンの発火に過ぎないのだ。物理現象としては均一なニューロンの発火から、どのようにして「自己の内と外」、「現在と過去」といった区別を支えるクオリアの差が出てくるのか？ この問いは、脳の情報処理能力の根幹に関わる問題なのである。

【メビウスの哲学】

心の哲学まとめ Wiki より https://www21.atwiki.jp/p_mind/pages/149.html

以下、該当サイト内容の自己解釈によるまとめ

●実在論

- ・記憶説、身体説：共に、堆積のパラドックスに陥る
- ・物理主義：堆積のパラドックスが生じる、節約の原理（オッカムの剃刀）に反する
- ・イマヌエル・カントのアンチノミーの論証：因果関係の実在性の否定
- ・三次元主義：論外
- ・四次元主義：存在論的には曖昧さがある、クオリアの存在論がないがしろにされている、物理主義的傾向強い、永久主義を前提としている
- ・実在論的世界像：私の視点が記述できない、独在性、および意識の超難問が深刻なアポリアとして生じる
- ・ゼノンのパラドックスが生じる（無限小という矛盾）
- ・形而上学的無限は不可能
- ・空間の量子仮説やループ量子重力理論は「時間」と「空間」の非実在を示す

●反実在論

- ・実在論の問題を解消できる
- ・独我論的世界像：私の視点が記述できる
- ・独在性のアポリアを合理的に説明可能
- ・人に経験されるもの全ては現象（クオリア）である
- ・現象主義
- ・※しかし、クオリアの同一性が説明できない
- ・エレア派においては、世界に多数存在しているように思われる個別的な自己は全て錯覚のようなものである（梵我一如的な自我観も可能かもしれない）
- ・透視因果は肯定
- ・変化という矛盾への解答が可能

無世界論：現在経験されている「このクオリア」の明晰性を否定、「私」と論理法則のみ、他我はアクセスすることができない別の宇宙、「主体＝世界」

■現象主義

└ 利点： 反実在論を前提としているために実在論の問題を解消できる

└ 欠点： 脳が人の行動に関して決定的役割を果たしていることを説明できない。現実世界も夢の世界も同じようなものとするが、「現実」に分類される世界にいるときは、私は決して空を飛べないという矛盾が生じる。

【考案】現象主義的心脳同一説 (PIT)、またはグローバルな構造实在論 (GSR)

- ・物質的对象の实在性を否定し、物質的对象の科学構造のみが实在的だとみなす
- ・世界に存在するのは現象 (クオリア) と、その現象の数学的構造、および現象を去来させる世界の数学的構造のみが存在
- ・科学構造とは VR 世界のプログラムのようなもの
- ・十四次元主義のブロック宇宙を組み込むことでアンチノミーの回避が可能 (※自己解釈：いわばアカシクレコード)
- ・現象の明晰性を否定しても、現象の規則性と物理法則の存在は、コギトや論理法則ほどの確実性はないものの、それなりに確実性が高いものとして認めることができる

■ 不死の証明

- ・「無からは何も生じない」「存在は無に転化しない」——この二つの信念は論理的に正しい。ならばそれらを前提に「私は存在する、ゆえに私は無に転化しない」と言えることになる

⇒自己解釈：シミュレーション仮説へと繋がる

【以前までの探求理論のまとめ】

基本的にはソリプシズム

自分以外の存在は今の自分を体験している「意識の主」が以前体験した、もしくは今後体験する存在の可能性

別々のシミュレーション人生を同時に体験している可能性

意識の主の"深層心理"が現実にルールを与える事によって「現在の意識の主」に現実を自在にコントロールできないようにさせている
(自分で自分にルールを課している)

客観的世界は「アイデアとしての情報」であり、实在ではない
見えない範囲の世界は、实在ではなく情報として存在する

つまり、

「私の心=世界」であり、

「他者の心＝私の心」として同時並行的に存在している

だがこれだけでは、『なぜ私は私なのか？』が説明できない

【新自己提唱理論】

『なぜ私は私なのか？』の解決法

・私という観念は原初から存在している

これ以外の解決法では、

1つの意識の主が同時に経験してる→ではなぜ今私は私？

自我は幻想である→なぜ私は私という幻想なのか？

全員私である→なぜ今私は私という人物だけを認識してるのか？

問題がすり替わりだけとなる

つまり、

「私という観念は原初から存在している」ということは、

1つの意識の主を源とした（独我論）複数の観念が独立して存在し（観念論）

「私の心≠他者の心」であると同時に、「私の心＝世界、他者の心＝世界」が成立する
そういう世界観を描くことができる

別の表現をするなら、

1人1宇宙の無数の並行世界仮説を私は提唱したい

1人1独我論的世界が、無数並行して1つの世界に存在し、

無数の並行世界から1つの世界が構成されている

無数の並行世界により1つの集合的無意識(神の頭脳)は構成されている、ソリプシズム的な
イデアリズムと考えられる。

以前提唱した、多重人格仮説では、

もともと巨大な1つのものが複数に分かれる構図を想定したが、

新提唱理論では、もともと複数のものが巨大な1つにまとまる構図を想定する。

いくなれば、アニメのセル画のようなイメージ

そして、この概念は『仏教』の考え方に共通するところが多々存在する。

仏教において、空、涅槃(バラモン教において梵我一如)、阿頼耶識という概念から、イデオロギズム的なソリブシズムが見出せる。

【結論】

証明不可能なことは、どんなに膨大な知識や考察を集結したとしても可能性を提示する以上のことはできない。

可能性を提示したとしても、実証できない以上モヤモヤが消えることは無い。

つまり、ウィトゲンシュタインの言葉を借りるなら「語りえぬものについては、沈黙しなければならない」

最終的な結論

『信じる者は救われる』

【考察】

近年の研究から、生命の起源は「RNA ワールド仮説」が主流になりつつある。隕石からリボースがもたらされ、原始の海からは塩基ができたことで RNA が合成され、RNA から生命が生まれたのだろう。

つまり生命は原始の惑星の条件下において自然に発生し、このことから宇宙全体に生命の種が広がっているものと想像できる。

また、生命の存在は宇宙全体において普遍的かつ必然的な存在だということも、近年の研究により明らかになりつつある。

H₂O という情報は水の性質を表し 集まると視覚的に水に見えるといったものみたいなもので、これは常に環境と一体化した、孤立して存在することのない相対的な存在。

遺伝子という名のプログラムも、常に環境と一体化した、孤立して存在することのない相対的な存在であろう。

遺伝子のプログラムが生物を形づくり、遺伝情報に基づいたデフォルトな心が生まれ、デフォルトな心に外部の刺激が加わることで、相対的な価値基準ができていき、心に備わった相対的な価値基準に基づいて、相対的に世界を知覚し認識する。

世界のあらゆるものは「相対的」なもので構成されている。物理法則をはじめとする科学構造と、クオリアのみが背景場としてある。

生物はドーパミンをはじめとする「快樂物質」を求めて生きているのではないか。人間は、ドーパミン過剰環境にあるように思える。これは自然の状態とはかけ離れた状態であるといえる。

本来、生物は原始時代のようなドーパミンが貴重な存在である環境を想定して進化してきたのかもしれない。貴重なドーパミンを得るために生きる活動に奮闘するのが通常である環境、この環境によりバランスの良いドーパミン量が保たれているのだろう。

本来、生物の欲求は(人間と比べて)単純明快なものであり、生活様式も単純明快なものだった。人間になり知能が発達したことで、生活様式も欲求も(他の生物と比べて)より複雑なものとなり、自然とはかけ離れていった。

それゆえに、煩惱にとらわれず自然にかえろうという意味で、仏教の教えは人間において有効のように思える。

ドーパミンは多すぎても少なすぎても人体に悪影響を及ぼす。バランスの良い量が適切である。このことから、ドーパミンをはじめとする快樂物質は「生きるための」「子孫を残すための」行動を促すことが役割であり、快樂物質を得ることそのものが生きる目的ではなく、「生きるため」「子孫を残すため」が生きる目的であると思える。

脳は意識を生み出しているのではなく、制限バルブによって意識を制限している。世界全体に集散的無意識というのがあり、脳がそれを制限することで個人としての意識となる。

死のプロセスにおいて大量のドーパミンが放出されることについての考察

ドーパミン過剰状態により、幻覚や幻聴が現れることが知られている。幻覚剤をはじめとする薬物の作用や、統合失調症による影響からも裏付けられる。

幻覚、幻聴というのは、脳に入ってくる情報の制限バルブの異常ではないだろうか。であるとすると、ドーパミン過剰状態により脳の制限バルブに異常をきたすことで、幻覚、幻聴が起こるのかもしれない。

死の直前に見る走馬灯、良い人生を送れば良い人生の走馬灯を見る。悪い人生を送れば悪い人生の走馬灯を見る。これが、天国と地獄の正体なのだろうか。

死のプロセスにおいて大量のドーパミンが放出されることにより、死の直前は多幸福感に溢れる。もしかしたら、この多幸福感が天国の入り口なのかもしれない。

前世の記憶を覚えているのは幼い子が多かったり、幼い子がイマジナリーフレンドを形成しやすいのは、まだ自分と世界の境界が曖昧だからなのではないだろうか。

生まれて間もない頃は、自分と世界の区別がついてない状態であり、そこから成長と共に個人としての意識を形成していくのだろう。

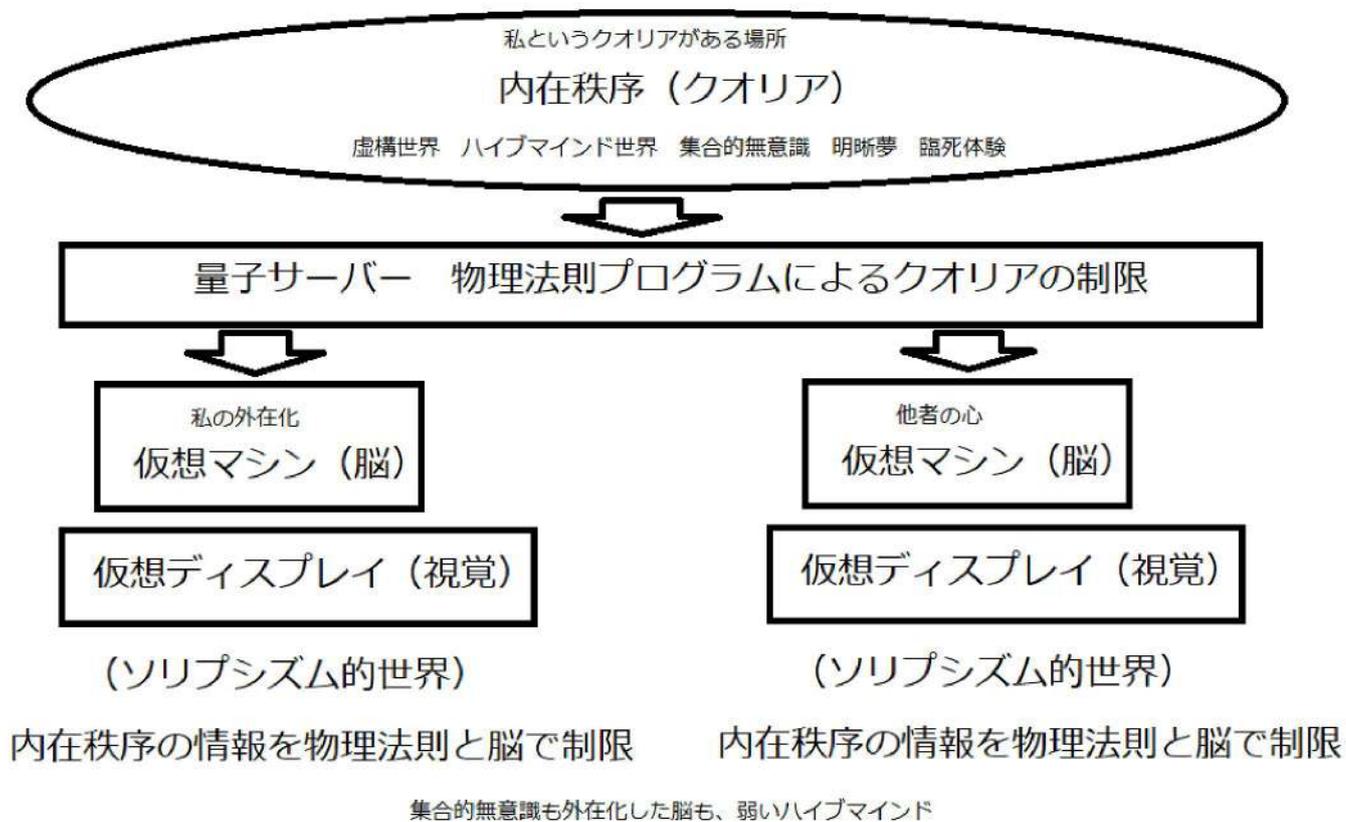
意識というのは「ハイブマインド」であると思える。通常意識は「強いハイブマインド」であり、個や自我は1つである。だが、解離性同一性障害になると「弱いハイブマインド」になることで、個を保持しているか、必要に応じて集合精神に入ったり出たりするタイプのハイブマインドになるのだろう。そして、我々1人1人の意識は集散的無意識における「極限に弱いハイブマインド」であると思える。

生物の社会的観点や、1877年に Espinas が「いかなる生物も単独で生活することはない」と述べていることから、生物全般において「社会」というものが生きる上で重要になってくることがわかる。

人間においても「社会」すなわち、「関係性」が生きる上で特に大事であることから、もしかしたら万人に共通する生きる目的とは『関係性』なのではないかと考えることができる。

上記のことを総合すると、まるでこの世は「生命が誕生するようにできている」と思える。宇宙の進化もある意味、生命が誕生する方向に進化していったと言えるのではないだろうか。

【シミュレーション仮説についての考察】



結論

「クオリア」がこの世界の本質であり、あらゆるものは「色即是空」である

～参考キーワード～

量子力学

ポストコペンハーゲン理論

内在秩序

集合的無意識

仏教—唯識論

イデア論

ホログラフィック原理

量子重力理論

シミュレーション仮説

脳ホログラフィー理論

量子脳理論

量子生物学

永遠の水槽の脳シミュレーション仮説

臨死体験

輪廻転生

神秘体験

高次元宇宙論的自己組織化論

イマジナリーフレンド

非意識的ホムンクルス

意識の統合情報理論

パンスペルミア説

エーテル、アカシックレコード

観念論

精神のフィードバックループ

意識のオーバーフロー

メビウスの哲学

「無機物の自己組織化」 → 散逸構造論

ブロードの制限バルブ説

～特に影響を受けた文献～

- ・『投影された宇宙—ホログラフィック・ユニヴァースへの招待』
著：マイケル・タルボット
- ・Web サイト『宇宙の謎を哲学的に深く考察しているサイト』
<https://newphilosophy.net/>
- ・『サピエンス全史』 ユヴァル・ノア・ハラリ（著） 解説動画
<https://www.youtube.com/watch?v=fud4-L2lnqQ>
<https://www.youtube.com/watch?v=vEyOTqbio00>
<https://www.youtube.com/watch?v=ByjFGWQLqw0>
- ・『仏教』の教え